

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	幹線道路整備事業（2級8号）	事業期間	平成 27 ~ 32 年度	整理番号	06010306
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢弥
				連絡先	506

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進
				事務事業	01	主要道路整備事業
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 02 目 03 事業 06
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市道2級8号線は、県道槻木矢ヶ崎線と諏訪中央病院線を結ぶ路線であるが、一部狹隘道路を解消するためバイパスルートを開削する必要が生じた。本事業により、狹隘道路の解消とともに中央病院北側の粟沢地区方面からのアクセス性が向上し、安心安全なまちづくりに寄与するものである。				
	現状と背景 （どうして）	現状の2級8号線は道路幅員が狭く、生活道路としての機能を果たしていない。また、広田地区圃場整備事業の中で幹線道路の建設が必要になった。これらの課題を解消するため、2級8号の道路改良工事を行い中央病院へのアクセスを向上させることが必要になった。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者 （誰のために）	市道利用者及び沿線住民		
		対象 （直接働きかける）	沿線の関係者（土地所有者、住民等）			
		意図	生活道路の確保、交通環境の改善、交通事故の防止、および交通の円滑化を図る。			
	手段・方法 （どうやって）	広田地区ほ場整備事業と本事業を関連させながら、効率的に事業を進める。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		詳細設計	詳細設計延長	m	詳細設計実施延長	1,040
		改良道路	道路改良延長	m	工事施工延長	1,040
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		設計及び用地交渉	設計交渉進捗率	%	(詳細設計実施延長+契約筆数) / (道路改良計画総延長+筆数)	100
		改良道路	改良工事進捗率	%	工事施工延長 / 道路改良工事総延長	100
D （ ）	活動指標	用地交渉	用地交渉件数	筆	用地補償対象筆数	32

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円		12,744,000	39,805,454	185,302,719	180,000,000	
財源内訳							
国庫支出金	円		4,550,000	21,893,000	101,087,000	99,000,000	
県支出金	円						
地方債	円		8,194,000	16,100,000	74,360,000	72,900,000	
その他特定財源	円						
一般財源	円			1,812,454	9,855,719	8,100,000	
職員数	人		0.25	0.30	0.30	0.30	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人		0.25	0.30	0.30	0.30	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	-	228.00	714.00	3,338.00	3,290.00	
O （ ）	活動指標	詳細設計延長	目標	m	1,040		
			実績	m	1,040		
		達成率	%	100.00			
	道路改良延長	目標	m			20	485
		実績	m			20	485
		達成率	%	-	-	100.00	100.00
用地交渉件数	目標	筆		32			
	実績	筆		32			
	達成率	%	-	100.00		-	
成果指標	設計交渉進捗率	目標	%	30	100	50	
		実績	%	50	100	50	
	達成率	%	-	166.67	100.00	100.00	
改良工事進捗率	目標	%			2	48	
	実績	%			2	48	
	達成率	%	-	-	100.00	100.00	
備考							

事務事業名	幹線道路整備事業（2級8号）	事業期間	平成 27 ~ 32 年度	整理番号	06010306
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢 弥
				連絡先	506

期	目 標	実 績	課 題
第1期	収用法に基づく譲渡所得の特別控除のため、税務署と事前協議を実施する。	長野税務署より確認済み書をいただき事前協議済となった。	今後、買収単価の見直しにより、税務署に提出した事前協議資料を修正する必要がある。
第2期	県営ほ場整備の造成工事の発注スケジュールに合わせてボックスカルパート築造工事を発注する。	予定通り、ボックスカルパート築造工事を発注することができた。	ほ場整備工事と工程が合わなくなってきたため、ボックスカルパート築造工事の契約をしたものの着工できない期間が発生してしまった。
第3期	確定申告の添付資料を地権者に発送する。	年内に対象者全員に確定申告の添付資料を送付することができた。	確定申告の資料作成に当たり、地権者のマイナンバーを取得する必要があるため取り扱いに注意する必要がある。
第4期	ボックスカルパートの配筋誤りが無いように現地確認を確実に実施する。	現地で配筋検査を実施し適切な配筋を確認した。	繰越工事工事になってしまったので工程管理を確実に早期完了につつ努める。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	

課 題	交付金内示率が低く、事業進捗に影響を及ぼす可能性がある。 用地確保においては、地権者合意の時期に合わせた取得が必要になるため、交付金に頼らない事業執行も重要な課題となる。	記 号 の 定 義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
		前年度総合評価判定
		前年度評価シート整理番号 05010306

細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
ほ場整備と県道拡幅に合わせた計画的な事業執行が必要である。	ほ場整備と県道拡幅に合わせた計画的な事業執行が必要である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
成 果 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性
拡 充	②	⑤
現 状 維 持	③	⑥
縮 小	④	⑧
休 廃 止	①	⑩
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性
改 革 ・ 改 善 策	交付金の内示額に応じて事業を進めるが、完成が大幅に遅れる場合は、起償の充当が必要になる。	交付金の内示額に応じて事業を進めるが、完成が大幅に遅れる場合は、起償の充当が必要になる。

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	幹線道路整備事業（上道線）	事業期間	平成 27 ~ 29 年度	整理番号	06020103
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	名取 弘晃
				連絡先	533

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	06	都市計画道路の整備
				事務事業	05	幹線道路整備事業
	予算事業名	幹線道路整備事業			会計コード	001 款 08 項 02 目 03 事業 07
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	茅野市の都市計画道路は、23路線、約32kmが都市計画決定されていますが、30年以上にわたって未着手の路線も存在します。このような路線についての必要性、実現性、整備効果等を検証と、都市計画道路の変更・廃止を含めた見直しを行い、平成27年度で2路線（上道線、一ノ宮線）を廃止しました。27年度から上道線の廃止に伴う代替整備を29年度までに実施いたします。 平成29年度事業完了予定。				
	現状と背景 （どうして）	都市計画道路の廃止に伴い、それに代わる代替整備を実施することについて、住民の理解を得られるよう努めます。また、現状も狭隘箇所が多く交通事故も絶えないことから、危険個所に絞って整備していきます。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者 （誰のために）	市民、通行者、土地所有者		
		対象	対象 （直接働きかける）	市民、土地所有者及び関係機関		
	手段・方法 （どうやって）	廃止により都市計画道路としての整備ができなくなりましたが、危険個所をできるだけ回避するため、危険個所に絞り込みによる道路改良工事を実施し、通行車両及び歩行者の安全を確保してまいります。				
		当該路線内において整備対象とする危険個所の絞り込みと、拡幅工事が可能な場所について用地を取得をしながら局部的な改良工事を行います。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		安全な交通確保と危険個所の排除	工事実施率	%	発注工事の完成量/工事発注の事業量	100
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		交通事故の発生頻度	交通事故発生頻度	件	年間事故発生件数	0

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)	円		9,386,920	61,385,028	23,349,600	
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円		8,400,000	55,200,000	20,000,000	
その他特定財源	円					
一般財源	円		986,920	6,185,028	3,349,600	
職員数	人					
正規職員	人					
嘱託職員	人					
臨時職員	人					
合計	人					
対象（者）数			55,435	55,827	55,737	
延利用（者）数 (b)			55,435	55,827	55,737	
単位コスト (a)/(b)	円	—	169	1,100	419	—
受益者負担額	円					
市民一人当たりのコスト	円	—	168.00	1,101.00	421.00	—
活動指標	工事実施率	目標		100	100	100
		実績		100	100	100
	達成率	%	—	100.00	100.00	100.00
	—	目標				
—	実績					
—	達成率	%	—	—	—	
成果指標	交通事故発生頻度	目標		0	0	0
		実績		0	0	0
	達成率	%	—	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	—	目標				
—	実績					
—	達成率	%	—	—	—	
備考	「対象(者)数」及び「延利用(者)数」の数値については、本事務が不特定多数に影響を及ぼすものでその数値を把握できないため、「市の人口」を用いることとした。					

事務事業名	幹線道路整備事業（上道線）	事業期間	平成 27 ～ 29 年度	整理番号	06020103
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	名 取 弘 晃
				連絡先	533

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・工事発注準備	・測量及び設計内容の精査実施	・水路の流量が多く、落水するまで施工が出来ない
第2期	・地元調整 ・工事発注及び契約締結	・7/12 地元区長へ工事説明を行う ・8/5 地元区議会へ工事説明を行う	・水路の水は、落水まで絞れない
第3期	・工事着手	・10月上旬に隣接者及び地元区民へ工事着工のお知らせをする。(回覧) ・工事実施中	・本工事隣接路線において、民間会社の工事が始まり、交通規制による苦情が発生した
第4期	・工事の施工完了と拡幅部の供用開始	・3/23 工事完了 ・3/30 共用開始となる	・本年度事業完了

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 施工時の交通規制等のトラブル	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック					4					4					4					4	A
課題	都市計画道路廃止に伴う代替整備として狭隘部の部分拡幅を行った箇所について、地元において事故発生を危惧されていたため、工事により問題は改善されている反面、見通しと走行性の改善を起因とする通行車両の速度超過による通行者の安全確保が課題となる。															記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要					
前年度総合評価判定																A					
前年度評価シート整理番号																05010605					

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	前年度改革・改善策の実施状況	都市計画道路廃止に伴う改良工事であったが、最低限の拡幅工事が完了され地域の交通利便性が図られる。					都市計画道路廃止に伴う代替整備として狭隘部の部分拡幅を行った箇所について、地元において事故発生を危惧されていたため、工事により問題は改善されていると考えます。			
前年度細施策評価における今後の方向性										

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性 拡 充		②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性 拡 充			
	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持				
	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
	休 廃 止	①	レ			休 廃 止	レ			
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改 革 ・ 改 善 策	地区内における重要な生活道路のため、施工中においては、市民生活に極力影響のないように工事を進める。					工事着手にあたり、近接事業者及び近隣との協議を行いながら、車両通行規制の期間短縮に努めたと思います。				

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	都市計画課長	田 中 正 貴
---------	------------	---------	--------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	生活道路整備事業	事業期間	平成 29 ~ 29 年度	整理番号	06010301
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	両角敏行
				連絡先	506

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり	
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実	
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進	
				事務事業	02	生活道路整備事業	
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 02 目 03 事業 01	
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市道を改良することにより、生活道路の確保、交通環境の改善を行い、もって交通事故の防止を図り、あわせて交通の円滑化に資することを目的とする。					
	現状と背景 （どうして）	道路幅員が狭く、生活道路としての機能を果たしていない。円滑な交通が確保されていない。道路ストックおよび付属道路施設等が老朽化してきている。					
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	受益者 市道利用者及び沿線住民				
		対象 （直接働きかける）	沿線の関係者（土地所有者、住民等）				
		生活道路の確保、交通環境の改善、交通事故の防止、および交通の円滑化を図る。					
	手段・方法 （どうやって）	道路改良のみならず、道路側溝（水路）、舗装、法面等道路に付随する構造物も整備していく。地元区要望書に対する対応についても、きめ細やかな対応ができるように努める。					
N （ ）	評価指標の作成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
			年度内工事実施率	実施率	%		100
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		工事整備率	整備率	%	(年度内整備済延長)/(年度内計画整備延長)	100	

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）			
事業費等 (a)	円	192,035,000	358,371,760	440,914,439	442,723,322	385,150,000			
財源内訳									
国庫支出金	円								
県支出金	円	8,281,000	9,000,000	7,650,000					
地方債	円	7,500,000			310,000,000	324,000,000			
その他特定財源	円								
一般財源	円	176,254,000	349,371,760	433,264,439	132,723,322	61,150,000			
職員数	人	3.10	2.55	2.55	2.55	2.55			
正規職員	人								
嘱託職員	人								
臨時職員	人								
合計	人	3.10	2.55	2.55	2.55	2.55			
対象（者）数	人								
延利用（者）数 (b)	人								
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-			
受益者負担額	円								
市民一人当たりのコスト	円	3,420.00	6,402.00	7,905.00	7,975.00	7,299.00			
D （ ）	活動指標	実施率	目標	%	100	100	100	100	100
			実績	%	70	90	95	100	100
	達成率	%	70.00	90.00	95.00	100.00	100.00		
	目標	-							
成果指標	整備率	目標	%	100	100	100	100	100	
		実績	%	100	100	100	100	100	
達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00			
目標	-								
実績	-								
達成率	%	-	-	-	-	-			
備考									

事務事業名	生活道路整備事業	事業期間	平成 29 ~ 29 年度	整理番号	06010301
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	両角敏行
				連絡先	506

期	目標	実績	課題
第1期	・年度内工事発注箇所を精査し、全体工程を考慮した発注計画を立案する。 ・効率的な工事監理ができるよう担当割を行う。	小規模工事から大規模工事までの発注計画を策定し、早期着手分を発注できた。	効率的な現場監理
第2期	発注済工事の現場監理をしながら、残工事の早期発注を行う。	昨年と比較し大幅に予算が増加したが、予定工事の約60%を発注できた。	舗装工事の年内完了の促進
第3期	工事全体が最盛期を迎えるため、現場監理に重点を置き、現場トラブルが発生しないよう努める。	年内完成予定の工事については、トラブルなく竣工できた。 舗装工事は、冬季間に入る前に完成した。	次年度工事候補箇所の決定 (要望箇所の順位付)
第4期	・年度内予定工事を完成する。 ・次年度工事の準備を進める。	降雪が少なく、予定工事は無事完成した。	年度末に要望された箇所の精査、地元調整を行う。

事中評価																						
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 舗装工事を多く発注し、規制に係る交通誘導員が不足し工期が遅れる可能性がある。	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今後の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> <td>レ</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今後の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	レ	現状維持	③	⑥	⑨		縮小	④	⑧	⑩		休廃止	①			
今後の方向性	成果の方向性		②	⑤	⑦	レ																
	現状維持		③	⑥	⑨																	
	縮小		④	⑧	⑩																	
	休廃止	①																				
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																					

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	
課題	各区からの要望書により事業を計画しているが、境界トラブル、用地寄付承諾の手続き等で地元調整がつかないため未着手箇所が増加している。 この冬の凍上により破損した舗装が市内各地で見られ、経年によるひび割れに加えて、車両走行にも支障が生じる恐れのある道路が増えてきました。															記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要 前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号 05010306

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	各区から提出される道路関係の要望書は特に多いことから、これら施設がいかに市民にとって生活に密着しているかを物語っている。 道路の性質上延長も長いことから、毎年の修繕ではなかなか追いつかない現状である。	各区から提出される道路関係の要望書は特に多いことから、これら施設がいかに市民にとって生活に密着しているかを物語っている。 道路の性質上延長も長いことから、毎年の修繕ではなかなか追いつかない現状である。					各区から提出される道路関係の要望書は特に多いことから、これら施設がいかに市民にとって生活に密着しているかを物語っている。 道路の性質上延長も長いことから、毎年の修繕ではなかなか追いつかない現状である。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後																																																																			
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">成果の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> <td>レ</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	成果の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	レ	現状維持	③	⑥	⑨		縮小	④	⑧	⑩		休廃止	①				<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">成果の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>レ</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					成果の方向性	成果の方向性				レ	現状維持					縮小					休廃止					<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">成果の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>レ</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					成果の方向性	成果の方向性				レ	現状維持					縮小					休廃止			
成果の方向性	成果の方向性		②	⑤	⑦	レ																																																																			
	現状維持		③	⑥	⑨																																																																				
	縮小		④	⑧	⑩																																																																				
	休廃止	①																																																																							
成果の方向性	成果の方向性				レ																																																																				
	現状維持																																																																								
	縮小																																																																								
	休廃止																																																																								
成果の方向性	成果の方向性				レ																																																																				
	現状維持																																																																								
	縮小																																																																								
	休廃止																																																																								
修繕した道路がある程度の耐久性を確保するには、路盤等を入れていく必要がある。コストが多少高くなっても、耐久性を重要視していくべきと考える。また、技術革新により少しでもコストが下げられ、且つ効果が得られる工法を研究していく必要がある。 市民が毎日利用している宿中道路の整備も今後重点的に整備していく必要がある。（幹線道路は交付金を利用し、宿中道路は単費対応していく）	修繕した道路がある程度の耐久性を確保するには、路盤等を入れていく必要がある。コストが多少高くなっても、耐久性を重要視していくべきと考える。また、技術革新により少しでもコストが下げられ、且つ効果が得られる工法を研究していく必要がある。 市民が毎日利用している宿中道路の整備も今後重点的に整備していく必要がある。（幹線道路は交付金を利用し、宿中道路は単費対応していく）					修繕した道路がある程度の耐久性を確保するには、路盤等を入れていく必要がある。コストが多少高くなっても、耐久性を重要視していくべきと考える。また、技術革新により少しでもコストが下げられ、且つ効果が得られる工法を研究していく必要がある。 市民が毎日利用している宿中道路の整備も今後重点的に整備していく必要がある。（幹線道路は交付金を利用し、宿中道路は単費対応していく）																																																																			

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		道路・水路管理事務			事業期間	平成	～	年度	整理番号	06010101							
担当部署		都市建設部		建設課	管理係	作成担当者名		伊藤 善彦		連絡先	502						
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり											
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実											
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進											
				事務事業	02	生活道路整備事業											
	予算事業名							会計コード	001	款	08	項	01	目	01	事業	03
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたり、市の道路、水路を管理する。															
	現状と背景 （どうして）	道路、水路は住民の生活に密着しており、これらの管理を怠ると、その健全な利用が損なわれやすいため。															
目的	対象 （誰のために）	直接・間接を問わず、道路・水路を利用する全ての人。															
	対象 （直接働きかける）	所有地が個人名義のまま市道認定されている人、境界確認の申請者、占用の申請者など利害関係者、またはその物件。															
	意図 （どんな状態にしたいか）	道路、水路の存在、適正利用を名実ともに確保する。															
	手段・方法 （どうやって）	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたる。															
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値								
		未登記土地の解消	未登記解消筆数	筆	未登記土地の解消筆数				60								
		道路・水路の境界確認	境界確認件数	件	境界確認に至った件数				270								
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値								
		未登記土地の解消	未登記解消筆数	筆	未登記土地の解消筆数				60								
		道路・水路の境界確認	境界確認件数	件	境界確認に至った件数				270								

実施状況	項目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
			事業費等 (a)	円	17,910,210	23,581,133	23,512,601	26,862,000
財源内訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
職員数	一般財源	円	17,910,210	23,581,133	23,512,601	26,862,000	28,763,000	
	正規職員	人	7.00	6.00	6.00	7.00	6.00	
	嘱託職員	人	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	
	臨時職員	人					1.00	
	合計	人	9.00	8.00	8.00	9.00	9.00	
状況	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
	受益者負担額	円						
O （ ）	活動指標	未登記解消筆数	目標	筆	60	60	60	60
			実績	筆	53	43	68	69
		達成率	%	88.33	71.67	113.33	115.00	
		境界確認件数	目標	件	270	270	270	270
			実績	件	267	258	260	257
		達成率	%	98.89	95.56	96.30	95.19	
	成果指標	未登記解消筆数	目標	筆	60	60	60	60
			実績	筆	53	43	68	69
		達成率	%	88.33	71.67	113.33	115.00	
		境界確認件数	目標	件	270	270	270	270
			実績	件	267	258	260	257
		達成率	%	98.89	95.56	96.30	95.19	
備考								

事務事業名	道路・水路管理事務	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06010101
担当部署	都市建設部	建設課	管理係	作成担当者名	伊藤 善彦	連絡先	502

期	目標	実績	課題
第1期	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたる。	未登記処理件数28件	境界確認については、不動産売買、公共事業実施などに伴って事業の必要が発生するため、計画化して事業を進める困難である。
第2期	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたる。	未登記処理件数15件	境界確認については、不動産売買、公共事業実施などに伴って事業の必要が発生するため、計画化して事業を進める困難である。
第3期	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたる。	未登記処理件数20件	境界確認については、不動産売買、公共事業実施などに伴って事業の必要が発生するため、計画化して事業を進める困難である。
第4期	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたる。	未登記処理件数6件	境界確認については、不動産売買、公共事業実施などに伴って事業の必要が発生するため、計画化して事業を進める困難である。

事中評価													
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 経済状況などに影響を受けやすく、事務の平準化は困難である。	今後の方向性												
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 実施計画にて予算増額	方向性												
	<table border="1"> <tr> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>	②	⑤	⑦	③	⑥	⑨	④	⑧	⑩	①		
②	⑤	⑦											
③	⑥	⑨											
④	⑧	⑩											
①													

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定	
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定		
評価の観点					4					4					4	A	
チェック																	
課題	平成18年の新不動産登記法施行により、立会範囲拡大、測量用地の増加により1件あたりの処理時間及び費用が増加している。また、相続されていないとちもあり、相続人が多数となり寄付の承諾書受領に多くの時間を費やしている。未登記道路用地の中には抵当権が設定されている場合や地縁の複数名義の用地があり、未登記を解消できない原因になっている。										記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要					
	前年度総合評価判定					A					前年度評価シート整理番号					06010101	

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	毎年、継続的に未登記処理にあたっては、確実に件数は減少している。また、申請にもとづいて境界確認にあたり、適正な占用がされるよう事務にあっている。	毎年、継続的に未登記処理にあたっては、確実に件数は減少している。また、申請にもとづいて境界確認にあたり、適正な占用がされるよう事務にあっている。					毎年、継続的に未登記処理にあたっては、確実に件数は減少している。また、申請にもとづいて境界確認にあたり、適正な占用がされるよう事務にあっている。坂室地区未登記処理は今年度で終了させる。			
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改革・改善の方向性(ACTION)	細施策評価前					細施策評価後				
	未登記処理に当たっては税務課の課税台帳による確認を併用して作業をすすめる。	未登記処理に当たっては、税務課の課税台帳による確認や境界立会からの情報を活かしながら地元と連携して進める。								
今後の方向性	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山 和雄
---------	------------	---------	------	-------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		法面崩落防止事業		事業期間	平成 28 ~ 29 年度	整理番号	06010309								
担当部署		都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	武井英昭	連絡先	507							
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり									
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実									
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進									
				事務事業	02	生活道路整備事業									
	予算事業名					会計コード	001	款	08	項	02	目	02	事業	08
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	平成26年度に主要市道（L=69km）について、道路ストック構造物の維持管理および維持修繕の基礎資料とするため、当該施設の健全性の点検を実施した。本点検において、当該箇所は法面および擁壁部から湧水が染み出し、法面の表層崩壊が進行しており落石が発生している状態である。第3者への防災を目的とし、早急に法面修繕および湧水処理を実施する。													
	現状と背景 （どうして）	主要市道の総延長が長く、これに道路ストックの付属施設も広範囲に点在している。また、これらの視線に関わる台帳等の帳票も整備されていなかったため、客観的な調査や点検ができていなかったのが現状である。このため、修繕箇所も計画的ではなく劣化・損傷した物から順次修繕していくといった事後対応を実施していた。													
	目的	受益者 （誰のために）	市道利用者すべて												
		対象 （直接働きかける）	市道2級10号線上古田地区 ブロック積上の法面												
		意図 （どんな状態にしたいか）	既設法面崩落防止措置とその起因である湧水処理を実施することにより、市道利用者への防災対策が図られ、安全な道路ストックを提供する。												
	手段・方法 （どうやって）	平成27年度に実施した設計委託業務成果に基づき、法面は簡易吹付法枠工を実施し、湧水処理は水平ポーリング工を実施していく。また、工事を実施した後に台帳の作成とGISを利用したデータベースの構築を行っていく。													
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値						
		法面崩落防止	施工面積	m2					1,132						
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値						
		法面崩落防止	施工面積	m2					1,132						

実 施 状 況 （ D O ）	項目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
	財 源 内 訳	事業費等 (a)	円			17,153,640	16,826,400	
国庫支出金		円			9,323,000	8,448,000		
県支出金		円						
地方債		円			7,000,000	6,200,000		
その他特定財源		円						
一般財源		円			830,640	2,178,400		
正規職員		人			0.20	0.20		
嘱託職員		人						
臨時職員		人						
合計		人			0.20	0.20		
活 動 指 標	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	308.00	303.00	-	
	施工面積	目標	m2			1,132	1,132	
		実績	m2			556	1,132	
		達成率	%	-	-	49.12	100.00	-
	-	目標	-					
		実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	-	
成 果 指 標	施工面積	m2			1,132	1,132		
	実績	m2			556	1,132		
	達成率	%	-	-	49.12	100.00	-	
-	目標	-						
	実績	-						
	達成率	%	-	-	-	-	-	
備 考								

事務事業名	法面崩落防止事業	事業期間	平成 28 ~ 29 年度	整理番号	06010309
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	武井英昭
				連絡先	507

期	目 標	実 績	課 題
第1期	社会資本整備総合交付金の交付決定を受け、早期に発注できるように準備する。	交付金決定を受け、早期発注ができた。	契約後に落石の原因である法面からの湧水根源を施工段階で特定する必要がある。
第2期	現場着手し、落石の原因である法面からの湧水根源を特定する。	現場着手し、湧水根源を確認した。湧水の多くは、各地層に流れる地下水であることを確認した。	適切な湧水処理を始めとする工事監理を実施する。
第3期	適切な工事監理を実施し、工事を完成させる。	適切な工事監理ができ、当初工期内に無事工事完了できた。	本事業が完了したため、初期不良により現場の点検確認が必要がある。
第4期	本事業が完了したため、初期不良により現場の点検確認をする。	現場の点検を実施したが特に問題がなかった。	今後、道路ストック点検を踏まえて、今後の点検方法や時期を検討していく必要がある。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック					4					4					4					4	
課題	法面からの落石も確認されていることから、第三者被害が発生する前に早急に事業を進めていきたい。しかし、事業費（交付金）の制約があり思うように整備が進まないのが難点である。																				記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
	前年度総合評価判定										前年度評価シート整理番号										06010309

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前										細 施 策 評 価 後									
	前年度改革・改善策の実施状況										前年度細施策評価における今後の方向性									
改革・改善の方向性（ACTION）	前年度改革・改善策の実施状況										前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 （ ACTION ）	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定
成果の方向性					4					4
方向性					4					4
休 廃 止	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	橋梁長寿命化修繕事業	事業期間	平成 25 ~ 年度	整理番号	06010304
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢 弥
				連絡先	506

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進
				事務事業	03	橋梁修繕事業
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 02 目 03 事業 04
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	今後老朽化する茅野市の道路橋（以下「橋梁」という。）の増大に対応するため、長寿命化修繕計画に従って事後的な修繕から予防的な修繕へと政策転換をしている。重要度の高い橋梁から、修繕工事のための調査を行い工事を実施する。				
	現状と背景 （どうして）	橋梁の高齢化と劣化が急速に進んでいる。				
	目的	受益者 （誰のために）	すべての橋梁を渡る人、橋梁の下を通る車両等。			
		対象 （直接働きかける）	茅野市が管理する橋梁			
		意図 （どんな状態にしたいか）	延命化を図るため橋梁の損傷を改善する。			
	手段・方法 （どうやって）	橋梁毎に、損傷や重要度に見合った修繕工事を実施する。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		橋梁修繕計画	計画策定橋梁数	橋	修繕計画策定橋梁	263
		橋梁補修	補修橋梁数	橋	補修橋梁	92
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		橋梁修繕計画	計画策定橋梁数	%	（策定済橋梁数）／（修繕計画策定橋梁）	100
		橋梁補修	補修橋梁数	%	（補修済橋梁数）／（補修橋梁）	100

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）		
事業費等 (a)	円	13,917,516	40,591,770	48,751,200	117,039,600	150,000,000		
財源内訳								
国庫支出金	円	7,654,000	22,325,473	26,774,000	63,297,000	82,500,000		
県支出金	円							
地方債	円		16,430,000	19,770,000	46,200,000	60,700,000		
その他特定財源	円							
一般財源	円	6,263,516	1,836,297	2,207,200	7,542,600	6,800,000		
職員数	人	0.20	0.50	0.60	0.60	0.60		
正規職員	人							
嘱託職員	人							
臨時職員	人							
合計	人	0.20	0.50	0.60	0.60	0.60		
対象（者）数								
延利用（者）数 (b)								
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	248.00	725.00	874.00	2,108.00	2,789.00		
D O （ ）	活動指標	計画策定橋梁数	目標	橋				
			実績	橋				
		達成率	%	—	—	—	—	
	補修橋梁数	目標	橋	2	1	4	5	6
		実績	橋	2	1	5	3	6
		達成率	%	100.00	100.00	125.00	60.00	100.00
成果指標	計画策定橋梁数	目標	%					
		実績	%					
	達成率	%	—	—	—	—		
補修橋梁数	目標	%	7	8	12	16	22	
	実績	%	7	8	13	16	22	
	達成率	%	100.00	100.00	108.33	100.00	100.00	
備考								

事務事業名	橋梁長寿命化修繕事業	事業期間	平成 25 ~	年度	整理番号	06010304	
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢 弥	連絡先	506

期	目 標	実 績	課 題
第1期	高速道路や一級河川を占用している橋梁を補修するため早期に事前協議を行う。	事前協議をしていたため、河川区域内行為の許可まで円滑に進めることができた。また、高速道路上の規制についての協議についても行い、承諾を得た。	既存橋梁の河川占用許可が無いものがあるため、早急に解消する必要がある。
第2期	市道橋については、濁水期(11月)に直ちに工事着手できるように、準備期間を見越した工事発注を行う。また、跨道橋については、他工事の規制の中で実施できるよう、早期に発注する。	8月に工事発注を行うことができた。	11月までは河川内の工事ができないため、ほとんどが冬季の施工となってしまふ。
第3期	市道橋については、全面通行止めとなるため、交通規制に関する事前周知を適切に行い、工事中苦情の無いようにする。跨道橋については、高速道路上の規制であるため、安全管理を徹底させる。	ホームページ、LCVFM、案内看板等により事前周知を適切に行った結果、交通止めに関する苦情が一件もなかった。	路線の交通量により、全面通行止めが不可能な橋梁もあるため片側施工による工事となる。
第4期	受注者と工程を調整し、工期前に交通開放が可能となるようにする。	工期前に無事故で交通開放を行うことができた。	補修は、工事を進めるなかで新たな損傷を発見することになるため、大幅に増工と成ってしまい、また、変更設計額の確定までに時間がかかってしまふ。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック					4					4					4					4	
課題	橋梁は市の管理する道路施設であり、重要な施設である。限られた予算で安全性を確保するために、修繕費を抑えた効率的な補修を行う必要がある。															記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要					
	前年度総合評価判定																				
	前年度評価シート整理番号															05010305					

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	橋梁は資産価値の高い重要な施設である。施設を長기에利用するためには今以上の劣化進行を防ぐのに有効な事業であるため、課題である補修内容の変更に柔軟に対応し、計画通り事業を進める。	橋梁は資産価値の高い重要な施設である。施設を長기에利用するためには今以上の劣化進行を防ぐのに有効な事業であるため、課題である補修内容の変更に柔軟に対応し、計画通り事業を進める。									
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性					

改 革 ・ 改 善 策 (ACTION)	今 後 の 方 向 性 (改 善 策)					改 革 ・ 改 善 策 (ACTION)				
	橋梁の健全度を高く保ちながらも少ない費用で補修を行える計画とし、費用対効果を十分に精査する。	橋梁の健全度を高く保ちながらも少ない費用で補修を行える計画とし、費用対効果を十分に精査する。								

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	道路ストック点検・修繕事業	事業期間	平成 26 ~ 30 年度	整理番号	06010302
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	武井 英昭
				連絡先	507

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 05 第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり		
			施策 01 第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実			
			細施策 01 生活道路整備、維持管理の推進			
			事務事業 02 生活道路整備事業			
予 算 事 業 名				会計コード 001 款 08 項 02 目 03 事業 03		
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	主要幹線市道において、道路および付属物施設の健全性について調査・点検および評価を行ない、数値化することによって施設の劣化状況を把握する。このデータと平成25年に実施した市道路面性状調査の結果に基づき、第1期の舗装修繕計画に基づき修繕工事を実施する。また、次期計画をにらみ、緊急性の高い主要幹線について点検も行っていく。					
現 状 と 背 景 （どうして）	主要市道の総延長が長く、これに付属する施設も広範囲に点在している。また、これら施設に関わる台帳等の帳票も整備されていなかったため、客観的な調査や点検ができていなかったのが現状である。このため、修繕箇所も計画的ではなく劣化・損傷した物から順次修繕していくといった事後対応を実施していた。					
目 対 象	受益者 （誰のために）	市道利用者すべて				
	対 象 （直接働きかける）	1、2級市道並びにその他幹線市道および道路付属物				
的 意 図 （どんな状態にしたいか）	道路および付属物施設の健全性について調査・点検および評価を行なうことと台帳等の帳票整備を進めることにより、修繕計画を策定し、優先順位を明確にできる。また、修繕計画に基づき修繕工事を実施することにより、長期に渡る財政の平準化を図ることができる。					
手 段 ・ 方 法 （どうやって）	平成25年度に実施した路面性状調査の結果に基づき、優先順位の高い路線について修繕工法の検討を行ない、修繕工事を実施していく。また、道路付属物については、近接目視による点検を行ない、損傷の度合いを数値化し損傷および劣化状況の把握する。また、台帳等の帳票の作成とGISを利用したデータベースの構築を行なう。					
N （ ）	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	活動指標	舗装修繕	舗装修繕済延長	km		9
成果指標	成 果 ・ 効 果 は 何 ？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	舗装修繕	舗装修繕済延長	km		9	

項 目	単 位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	52,596,000	94,370,400	64,130,400	35,370,000	95,000,000	
財源内訳							
国庫支出金	円	28,927,800	51,639,127	35,206,600	19,410,000	52,250,000	
県支出金	円						
地方債	円		38,450,000	26,031,000	14,200,000	38,400,000	
その他特定財源	円						
一般財源	円	23,668,200	4,281,273	2,892,800	1,760,000	4,350,000	
職員数	人	0.30	0.25	0.25	0.25	0.25	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合 計	人	0.30	0.25	0.25	0.25	0.25	
対 象 （ 者 ） 数							
延 利 用 （ 者 ） 数 (b)							
単 位 コ ス ト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受 益 者 負 担 額	円						
市民一人当たりのコスト	円	937.00	1,686.00	1,150.00	637.00	1,749.00	
D O （ ）	活動指標	舗装修繕済延長	目標 km	8	8	8	8
		実績 km	1	2	1	0.3	1
	達成率 %	12.50	25.00	12.50	3.75	11.00	
	-	目標 -					
	実績 -						
	達成率 %	-	-	-	-	-	
成果指標	舗装修繕済延長	目標 km	8	8	8	8	
	実績 km	1	3	4	4.3	5	
達成率 %	12.50	37.50	50.00	53.75	64.75		
-	目標 -						
	実績 -						
	達成率 %	-	-	-	-	-	
備考							

事務事業名	道路ストック点検・修繕事業	事業期間	平成 26 ~ 30 年度	整理番号	06010302
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	武井 英昭
				連絡先	507

期	目標	実績	課題
第1期	社会資本整備総合交付金を受け早期に発注できるように準備する。	本年度発注予定箇所は、病院線の1路線について発注準備ができた。	病院線については、諏訪中央病院の出入り口前を施工するため、病院側との協議が必要となる。
第2期	病院線の施工にあたり、病院側との協議を実施する。協議後に、工事発注および契約をする。	病院との協議し、細部については業者決定後に再度協議を行っていく。また、発注および契約ができた。	詳細な病院側との協議を実施し、緊急車両や関係車両用の仮設出入り口を別途設ける協議が必要となる。
第3期	詳細な病院側との協議を実施し、緊急車両や関係車両用の仮設出入り口を別途設ける協議を実施する。工事を冬期前に竣工する。	病院側との協議により仮設出入り口を設け、緊急車両等に対応できた。また、予定どおり冬期前に竣工できた。	事業費の制約により、当初計画していた路線ができない路線が出てきたため、今後どのように進めるか検討が必要である。
第4期	事業費の制約により、当初計画していた路線ができない路線が出てきたため、今後どのように進めるか検討する。	・計画範囲を広げず、整備路線の優先順位の見直しを行い、第1次整備路線でも優先順位を見直した。(病院線→神之原山田線(玉川小まで))	今後、交通誘導員の配置方法および作業時間帯の検討等を行い更なるコスト削減を目指すと共に補助要望を上げていく必要がある。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 長野県内を始め全国的に交通誘導員が減少しており、交通誘導員の確保に苦慮している。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ①
当面の整備路線を選定(第1次整備路線)したが、施工延長がなかなか伸びないことから補助要望を大幅に上げていく必要がある。また、限られた財源の中で効率的に事業を推進するため、修繕工法や交通規制方法の見直しを図っていく。	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック					4					4					4					4	
課題	25年度に実施した路面性状調査結果によると1、2級幹線道路の47kmが緊急に修繕を要する道路と判定された。このことを受けて、平成26年度から交付金事業として修繕事業をスタートしたが、事業費(交付金)の制約もあり思うように整備が進まないのが難点である。															記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要					
	前年度総合評価判定					A					前年度評価シート整理番号					05010302					

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性			

改 革 ・ 改 善 策	今 後 の 方 向 性					改 革 ・ 改 善 策				
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定
改革・改善策					4					4
	当面の整備路線を選定(第1次整備路線)したが、施工延長がなかなか伸びないことから補助要望を大幅に上げて要求していく必要がある。平成30年度までに8kmの整備を目標としている。					当面の整備路線を選定(第1次整備路線)したが、施工延長がなかなか伸びないことから補助要望を大幅に上げて要求していく必要がある。平成30年度までに8kmの整備を目標としている。				

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	道路・河川維持修繕事業	事業期間	平成 29 ~ 29 年度	整理番号	06010201
担当部署	都市建設部	建設課	維持係	作成担当者名	伊東一英
				連絡先	504

計	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進
				事務事業	04	維持修繕事業
画	予算事業名	道路維持修繕事業費			会計コード	001 款 08 項 02 目 02 事業 01
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	舗装道路面が傷んで通行に支障が出ている箇所を補修する。未舗装市道砂利敷きへの材料支給。 道路側溝の傷んだ箇所を補修する。 風雨により堆積した道路上の土砂を清掃する。 幹線市道の維持に特に影響のある大きな法面の草刈り。 市が管理する河川について建設重機等の借り上げによる河床の整備。				
	現状と背景 (どうして)	冬期間の凍み上がりや経年により道路構造物が老朽化し通行や水の流れに支障をきたすため修繕が必要。道路上の土砂が道路側溝等へ流れ込み雨水の流れを妨げたり諏訪湖への流入等被害を発生させるため路面の清掃が必要。準用河川約40kmと普通河川約60kmについて台風や集中豪雨などで河川への土砂堆積や洗掘などが発生し越水や堤体の決壊に繋がる原因となる。				
	目的 (どんな状態にしたいか)	道路通行車両や通行者の事故防止。降雨時の冠水や浸水防止。市で建設機械重機等を借り上げて河床の整理を行い中小河川の流下能力が損なわれないようにし、地元地区と連携して災害に強い河川環境を維持する。				
P	対象	受益者 (誰のために)	茅野市内の市道道路利用者 および 河川沿線の居住者			
		対象 (直接働きかける)	茅野市道 約1800km および 準用河川約40kmと普通河川約60km			
	手段・方法 (どうやって)	舗装路面の傷んだ部分の補修（パッチング等）を行う。 道路清掃車で幹線道路の清掃を行う。 幹線市道の維持に特に影響のある大きな法面の草刈りを行う。 区・自治会等が未舗装市道の補修に使用する砂利を支給する。 地元区自治会等から情報を得ながら堆積土砂の排除や河床整理を行う。 地元区自治会等の一般河川環境整備活動に対して支援を行う。				
	意図	道路通行車両や通行者の事故防止。降雨時の冠水や浸水防止。市で建設機械重機等を借り上げて河床の整理を行い中小河川の流下能力が損なわれないようにし、地元地区と連携して災害に強い河川環境を維持する。				
N	活動指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		要望補修工事	補修工事件数	件	補修工事発注件数	400
		道路パトロールの実施	パトロール延長	km	道路パトロール自動車の総走行距離	20,000
		道路清掃の実施	道路清掃延長	km	幹線道路の土砂を除去した距離	150
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		道路施設物に起因した事故の防止	事故非原因率	%	100 - (事故件数 ÷ 365) * 100	100
	中小河川における河川埋塞による被害防止	河川非埋塞率	%		100	

実施状況	項目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算又は決算額)	平成30年度事業計画(予算)	
			事業費等(a)	円	167,984,413	164,955,196	156,248,580	158,297,172
財源内訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円	662,256	662,256	662,256			
	地方債	円				3,500,000		
	その他特定財源	円	440,640	579,960	1,030,320	594,540	450,000	
	一般財源	円	166,881,517	163,712,980	154,556,004	154,202,632	157,899,000	
	職員数	人	2.61	2.61	1.80	1.80	1.80	
状況	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合計	人	2.61	2.61	1.80	1.80	1.80	
	対象(者)数		200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	
	延利用(者)数(b)							
D	単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	2,992.00	2,947.00	2,801.00	2,851.00	3,103.00	
	活動指標	補修工事件数	目標	400	400	400	400	400
			実績	453	415	379	429	400
		達成率	%	113.25	103.75	94.75	107.25	100.00
パトロール延長	目標	km	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	
	実績	km	24,946	22,554	15,832	22,173	22,000	
	達成率	%	124.73	112.77	79.16	110.87	110.00	
道路清掃延長	目標	km	150	150	150	150	150	
	実績	km	150	146	150	150	150	
	達成率	%	100.00	97.53	100.00	100.00	100.00	
O	事故非原因率	目標	%	100	100	100	100	
		実績	%	99	98	100	100	
		達成率	%	99.00	98.08	100.00	100.00	
	河川非埋塞率	目標	%	100	100	100	100	
		実績	%	100	100	100	100	
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
備考								

事務事業名	道路・河川維持修繕事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06010201
担当部署	都市建設部	建設課	維持係	作成担当者名	伊東一英	連絡先	504

期	目標	実績	課題
第1期	凍上による舗装破損箇所の早期修理 水路等破損箇所の用水使用前の修理 砂利道の道直しへの支援(区への砂利支給)	しゅん工した補修工事等:99件(H29.6.30現在) 砂利支給:31区(3月配達分)、28区(4月配達分)、6区(5・6月配達分)	特にハヶ岳エコーラインの舗装劣化が激しく、パッチング箇所が増加しています。
第2期	区・自治会の要望補修箇所の早期着工 懸案箇所の解決に向けた対応	しゅん工した補修工事等:232件(H29.9.30現在)	なし
第3期	区・自治会の要望補修箇所の早期着工 除雪路線の補修工事を冬前に完成	しゅん工した補修工事:311件(H29.12.31現在)	なし
第4期	区・自治会の要望補修箇所の早期着工 パトロール及び通報等による、路面破損箇所の早期補修	しゅん工した補修工事:429件(H30.3.31現在)	今冬期は寒暖の差が激しく、舗装の傷みが早く発生し、応急補修箇所が増加しています。

事中評価																						
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 特になし	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今後の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>拡充</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今後の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	拡充	③	⑥	⑨	現状維持	④	⑧	⑩	縮小	①			休廃止			
今後の方向性	成果の方向性		②	⑤	⑦																	
	拡充		③	⑥	⑨																	
	現状維持		④	⑧	⑩																	
	縮小	①																				
休廃止																						
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 特になし	<table border="1"> <tr> <td>皆減</td> <td>縮小</td> <td>現状維持</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td colspan="4">コスト投入の方向性</td> </tr> </table>	皆減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性																
皆減	縮小	現状維持	拡大																			
コスト投入の方向性																						

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	
課題	①道路構造物の老朽化による補修要望が多く寄せられている。 ②広い範囲又は長い区間で傷んでいる場所もあり、維持修繕の補修工事では対応が困難な箇所が増えている。 ③個人林等から道路への倒木及び支障木が多く発生しており、環境整備事業の経費が増加している。 ④河川内の堆積物による浚渫を実施する際、管理道路がない箇所が多く経費が多く掛っている。														記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要	
前年度総合評価判定															A	
前年度評価シート整理番号															05010205	

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	①道路構造物の補修を行うことで通行車両や通行者の事故防止や降雨時の冠水等の防止が図られることから、予算を見ながら緊急度で判断し積極的に補修を行っていく。 ②河川浚渫については、集中豪雨等の出水時においても、閉塞及び越水等を防ぐ有効な手段であることから、実施していくことが必要であり、地元区から情報を得ることが、特に状況把握には重要となる。	①道路構造物の補修を行うことで通行車両や通行者の事故防止や降雨時の冠水等の防止が図られることから、予算を見ながら緊急度で判断し積極的に補修を行っていく。 ②河川浚渫については、集中豪雨等の出水時においても、閉塞及び越水等を防ぐ有効な手段であることから、実施していくことが必要であり、地元区から情報を得ることが、特に状況把握には重要となる。								
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	拡充		②	⑤	⑦	成果の方向性	拡充		
方向性	現状維持		③	⑥	⑨	方向性	現状維持			⑨
方向性	縮小		④	⑧	⑩	方向性	縮小			
方向性	休廃止	①				方向性	休廃止			
	皆減 縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性					皆減 縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性				

改革・改善策
①規模の大きい補修箇所は補修予算では対応困難なため、建設係と調整を図り区・自治会へ補修時期等について説明する。 ②緊急箇所は冬期前を目安に応急等の対応を行う。 ③河川浚渫については、地元区からの情報に加え、河川調査の情報も河川の維持管理対策に繋げていく。
①規模の大きい補修箇所は補修予算では対応困難なため、建設係と調整を図り区・自治会へ補修時期等について説明する。 ②緊急箇所は冬期前を目安に応急等の対応を行う。 ③河川浚渫については、地元区からの情報に加え、河川調査の情報も河川の維持管理対策に繋げていく。

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	市道除雪・融雪剤散布事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06010202
担当部署	都市建設部	建設課	維持係	作成担当者名	伊東一英	連絡先	504

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり									
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実									
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進									
				事務事業	05	除雪・融雪剤散布事業									
	予算事業名	市道除雪・融雪剤散布事業費				会計コード	001	款	08	項	02	目	02	事業	02
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	10cm以上の積雪時には、できるだけ通勤・通学の時間帯に間に合うように除雪重機等で集落と集落を結ぶ指定の幹線市道約200kmの除雪を行う。 降雪後の道路凍結時には、通勤時間帯や路線状況により指定の幹線市道の急坂や曲線部約90kmに融雪剤散布を行う。													
	現状と背景 （どうして）	スパイクタイヤの使用禁止や茅野市の地形等から市街地では平常時でも通勤・通学の時間帯に渋滞が発生しており、冬場の降雪や路面凍結時には交通に障害が出る等、通勤や物流に大きな影響が出る。このような道路状況について、除雪重機等の除雪作業や融雪剤散布が必要となる。													
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者 （誰のために）	茅野市内の道路利用者											
		対象 （直接働きかける）	市内の集落と集落を結ぶ幹線市道の指定箇所 約200km 市内主要幹線市道の急坂・日陰・曲線部分の指定箇所 約90km												
	手段・方法 （どうやって）	通勤や物流に欠かせない市内幹線道路において、積雪や凍結による交通遮断が発生しないよう除雪や融雪剤散布を行い、市内幹線道路網の機能確保を図る。 幹線市道の指定箇所 約200kmを重機等で除雪する。 玄関口の除雪は利用者や区・自治会等に作業協力をお願いする。 幹線市道の急坂・日陰・曲線部分の指定箇所 約90kmの融雪剤散布を行う。 市で散布を行わない路線は利用者や区・自治会等に作業協力をお願いする。													
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値						
		除雪の実施	除雪延長	km	請負業者の除雪機械の総走行距離				200						
		除雪出動命令による出動	除雪回数	回	監督員から請負先へ、出動要請した回数 夜と朝の両方出動した場合は、2回とした				3						
	融雪剤散布	散布延長	km	融雪剤散布車両の総走行距離				90							
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値							
幹線道路における積雪による通行止めの防止	非通行止め率	%	1 - (通行止め件数 ÷ 365) × 100				100								

実施状況	項目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
			事業費等 (a)	円	157,379,363	99,988,537	93,124,202	103,148,549
財源内訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円		162,576				
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
職員数	一般財源	円	157,379,363	99,825,961	93,124,202	103,148,549	102,548,000	
	正規職員	人	0.39	0.39	1.20	1.20	1.20	
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合計	人	0.39	0.39	1.20	1.20	1.20	
状況	対象（者）数	人	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	
	延利用（者）数 (b)							
状況	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
状況	市民一人当たりのコスト	円	2,803.00	1,786.00	1,670.00	1,858.00	2,014.00	
	活動指標	除雪延長	目標	km	200	200	200	200
実績			km	200	212	213	215	200
達成率		%	100.00	106.05	106.50	107.50	100.00	
除雪回数		目標	回	3	2	3	3	3
		実績	回	7	5	3	2	3
達成率		%	233.33	250.00	100.00	66.67	100.00	
散布延長	目標	km	90	90	90	90	90	
	実績	km	86	88	89	89	90	
達成率	%	96.00	97.33	98.89	98.89	100.00		
成果指標	非通行止め率	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100	100	100
達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00		
備考	-	目標	-					
		実績	-					
達成率	%	-	-	-	-	-		

事務事業名	市道除雪・融雪剤散布事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06010202
担当部署	都市建設部	建設課	維持係	作成担当者名	伊東一英	連絡先	504

期	目標	実績	課題
第1期	リース除雪機械の返却 H29に向けた除雪アンケートの実施(除雪実施者)	リース除雪機械の返却:4台 融雪剤散布自動車等の回収:4台 (散布機2台は委託業者が管理) 建設業会-除雪アンケート(5/15)	融雪剤散布自動車、4台は実施者で配備できたため廃車
第2期	除雪受託業者の調整 融雪剤散布受託者の調整	除雪:35者 融雪剤散布:6者	除雪等受託者説明会の開催(10/16予定)
第3期	除雪・融雪散布の体制整備 除雪業者・融雪散布業者との早期契約	除雪会議の開催、除雪・凍結防止剤散布の実施体制整備(契約期間 11/17～翌年3/31) 除雪実施者:34者1組合、97台 散布実施者:6者、6台	なし
第4期	除雪による交通障害の発生防止 豪雪災害時の緊急確保路線の確保	除雪出動:全路線1回、緊急確保路線1回、計2回 散布出動:平地45回、山間地55回、高冷地83回	なし

事中評価																		
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 特になし	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今後の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>拡充</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今後の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	拡充	③	⑥	⑨	現状維持	④	⑧	⑩	縮小	①		
今後の方向性	成果の方向性		②	⑤	⑦													
	拡充		③	⑥	⑨													
	現状維持		④	⑧	⑩													
	縮小	①																
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 特になし	<table border="1"> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>	休廃止	①															
休廃止	①																	

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	
課題	<p>①業者所有の除雪重機等の老朽化が進み、重機の維持に苦勞している業者が増えている。 ②「除雪機はあるが運転する人がいない」ことが現場で起きている。今後の除雪体制及び融雪剤散布体制には、まずは必要な人材を確保できるかが課題である。</p>															<p>記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>
課題	<p>前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号 05010207</p>															

総合評価	細施策評価前					細施策評価後									
	<p>①除雪等機械の体制整備については、約200kmの除雪、約90kmの融雪剤散布に必要な台数が確保出来ました。 ②除雪・融雪剤散布には熟練した技術が必要であるが、オペレータの変更等によって不具合の発生が心配されることから、巡回等で都度指導を行い不具合を減らしました。 ③機械運転費・機械管理費については、県単価を準用しました。</p>	<p>前年度改革・改善策の実施状況 一部実施</p>					<p>①除雪等機械の体制整備については、約200kmの除雪、約90kmの融雪剤散布に必要な台数が確保出来ました。 ②除雪・融雪剤散布には熟練した技術が必要であるが、オペレータの変更等によって不具合の発生が心配されることから、巡回等で都度指導を行い不具合を減らしました。 ③機械運転費・機械管理費については、県単価を準用しました。</p>					<p>前年度細施策評価における今後の方向性</p>			

改革・改善の方向性(ACTION)	細施策評価前					細施策評価後				
	<p>①業者から随時情報を得て除雪路線の調整を行い、現在の除雪等の体制を悪くしないようにする。 ②地元区・自治会の情報から、除雪新規参入希望業者について情報を得て体制の調整を図る。</p>	<p>①業者から随時情報を得て除雪路線の調整を行い、現在の除雪等の体制を悪くしないようにする。 ②地元区・自治会の情報から、除雪新規参入希望業者について情報を得て体制の調整を図る。</p>								

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	市単河川改修事業（河川現況調査事業）	事業期間	平成 25 ～ 29 年度	整理番号	06010308
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	荒井 憲一
				連絡先	507

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	02	河川整備、維持管理の推進
				事務事業	01	河川改修事業
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 03 目 01 事業 02
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	洪水による影響が大きいと思われる箇所の現況調査を行い、現在の河川能力及び現状を把握し、市内にある河川を効率的に改修することにより、水害の発生を予防し、災害の拡大防止を図りたい。				
	現状と背景 （どうして）	市内の河川は、河川災害復旧でかなりの箇所が既に改修されているが、未改修の箇所について、集中豪雨等により水害が発生する恐れがある。河川台帳が未整備であり、市内河川の管理が網羅できていないため、河川改修についての根拠が不明確である。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者 （誰のために）	沿線及び下流域の住民		
		対象 （直接働きかける）	同上			
		意図 （どんな状態にしたいか）	沿線及び下流域の住民が、安心して安全に生活するため、準用河川、普通河川及び市街地排水路の護岸や排水路を改修する。			
	手段・方法 （どうやって）	市内にある47河川（準用河川18、普通河川29）を年次計画により調査する。洪水による影響が大きいと思われる箇所の現況調査を行い、現在の河川の現状および流下能力を把握する。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		河川調査	河川調査	m	市内の全河川数の3分の1程度	40,000
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		河川調査	河川調査	河川		47

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）		
事業費等 (a)	円	8,856,000	8,748,000	8,197,200	4,492,800			
財源内訳								
国庫支出金	円							
県支出金	円							
地方債	円							
その他特定財源	円							
一般財源	円	8,856,000	8,748,000	8,197,200	4,492,800			
職員数	人							
正規職員	人	0.03	0.25	0.25	0.25			
嘱託職員	人							
臨時職員	人							
合計	人	0.03	0.25	0.25	0.25			
対象（者）数	人							
延利用（者）数 (b)	人							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	158.00	156.00	147.00	81.00	-		
D （ ）	活動指標	河川調査	目標	m	8,200	6,950	7,650	2,200
			実績	m	9,182	7,350	6,850	3,300
		達成率	%	111.98	105.76	89.54	150.00	-
	-	目標	-					
	実績	-						
	達成率	%	-	-	-	-	-	
O （ ）	成果指標	河川調査	目標	河川	11	15	14	3
			実績	河川	11	14	8	4
		達成率	%	100.00	93.33	57.14	133.33	-
	-	目標	-					
	実績	-						
	達成率	%	-	-	-	-	-	
備考								

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

#N/A

事務事業名	自然災害防止事業(才野川)	事業期間	平成 25 ~ 31 年度	整理番号	06010307
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	荒井 憲一
				連絡先	507

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり	
			施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実	
			細施策	02	河川整備、維持管理の推進	
			事務事業	01	河川改修事業	
	予算事業名		会計コード		款 08 項 03 目 01 事業 01	
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	農地の宅地化に伴い、降雨時における雨水の流出時間が短くなったことに加え、小泉団地内の道路側溝の処理能力不足により越水災害が生じているため、才野川へ放流することによって、この危険を回避する。				
	現状と背景 (どうして)	小泉団地の雨水が道路側溝を越水し、ブロック積み擁壁全面に流出し、才野川季節断面が侵されている。				
	目的	受益者 (誰のために)	近隣住民、才野川沿線農耕作者			
		対象 (直接働きかける)	断面不足の河川			
	的 意 図 (どんな状態にしたいか)	氾濫しにくい河川に改善 小泉団地の水路システムの安定				
	手段・方法 (どうやって)	現在の才野川断面を大きくすることにより、現小泉団地の水路システムを受け入れることが可能になる。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		氾濫のしにくい河川	河川改修済み延長	m	改修河川延長	1,010
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		氾濫のしにくい水路(小泉団地)	改修率	%	(改修延長)/(全体延長)	100

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算 又は決算額)	平成30年度 事業計画(予算)	
事業費等(a)	円	34,204,680	28,590,000	57,145,200	25,855,200		
財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債		28,590,000	57,145,200	25,855,200		
	その他特定財源						
一般財源	円	34,204,680					
職員数	正規職員	人	0.10	0.25	0.25	0.25	
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.10	0.25	0.25	0.25	
対象(者)数							
延利用(者)数(b)							
単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	609.00	511.00	1,025.00	466.00	-	
活動指標	河川改修済み延長	目標	m	1,010	1,010	1,010	1,010
		実績	m	410	670	870	1,010
	達成率	%	40.59	66.34	86.14	100.00	-
	-	目標	-				
実績		-					
達成率	%	-	-	-	-	-	
成果指標	改修率	目標	%	41	66	86	100
		実績	%	41	66	86	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-
	-	目標	-				
実績		-					
達成率	%	-	-	-	-	-	
備考							

事務事業名	自然災害防止事業(才野川)	事業期間	平成 25 ~ 31 年度	整理番号	06010307
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	荒井 憲一
				連絡先	507

期	目標	実績	課題
第1期	地元調整を早期に完了させる。工事の用地等については地権者に個別で説明を行い了解を得る。	関係地権者に個別に事業説明を行い、工事への理解を得た。	工事完了後のクレームが発生しないように、現場説明会で丁寧な説明を行う必要がある。
第2期	早期に実施設計を行い、早期の発注を行う。	当初設計の見直しが生じたため、発注時期が多少遅くなった。	当初設計委託の照査を徹底する必要がある。
第3期	粗刈りが終わり次第すぐに着手できるように丁張掛けを行い、現場説明会を実施する。	現場説明会を実施し、隣接地権者の同意を得て工事に着手することができた。	丁張掛けの方法を、誰が見てもわかるように工夫をする必要がある。
第4期	適切な立会、指導を行うことにより、手戻りや出来形不足なく事業を完了させる。	工期内にクレームなしで、本事業を完了させた。	コンクリートを使用する工種が多く、品質確保のためにも厳冬の工事が極力少なくなるよう、工程管理に積極的に関与していく必要がある。

事中評価																										
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の方向性</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>方向性</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>向性</td> <td>①</td> <td>レ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>向</td> <td>性</td> <td colspan="3">皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</td> </tr> </table>	今	成果の方向性	②	⑤	⑦	後	の方向性	③	⑥	⑨	の	方向性	④	⑧	⑩	方	向性	①	レ		向	性	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性		
今	成果の方向性	②	⑤	⑦																						
後	の方向性	③	⑥	⑨																						
の	方向性	④	⑧	⑩																						
方	向性	①	レ																							
向	性	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																								
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)																										

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	
チェック					4					4					4	
課題	下流側から改修を始め4年が経過した。引き続き改修工事を実施していきたい。来年度は最終年度となり本事業が完了となるため、手戻りや手直しが発生しないよう周辺地権者と調整が必要となる。															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	06010307															

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	3年目の工事区間は、延長も長く既存道路内に構造物を埋設していく工事になる。用水と河川機能の両立を図るため、この事業は計画通りに進める必要がある。									
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性(ACTION)	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	②	⑤	⑦						
現状維持	③	⑥	⑨							
縮小	④	⑧	⑩							
休廃止	①	レ								
皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性						皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策	出水期及び農繁期の工事を避けなくてはならないが、工事着手後スムーズに工事を執行するためにも、水路製品の製造期間に時間を要することから、夏期に発注を行う。									

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		自然災害防止事業 北川改修工事		事業期間	平成 28 ~ 30 年度	整理番号	06010310
担当部署		都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	武井英昭	連絡先
						507	
計	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05 第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり		
				施策	01 第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実		
				細施策	02 河川整備、維持管理の推進		
				事務事業	02 自然災害防止事業		
画	予算事業名					会計コード	001 款 08 項 03 目 01 事業 04
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	平成25年度に実施した河川現況調査の結果から、流下能力不足と木柵護岸が腐食し護岸が崩壊していることが判明した。護岸には隣接する民地があり、これを守る必要がある。					
	現状と背景 (どうして)	河川現況調査の結果、流下能力の不足と平面線形の不具合が判明した。また、災害危険箇所位置付けられている箇所は、平成24年7月の豪雨災害で、沿線家屋に床下浸水の被害が発生している。					
	目的	受益者 (誰のために)	沿線住民				
P	対象	対象 (直接働きかける)	流下能力不足と護岸が崩壊している河川箇所				
	的	意図 (どんな状態にしたいか)	流下能力不足の解消と崩壊した護岸の改修により沿線住民の安全な生活確保する。				
	L	手段・方法 (どうやって)	流下能力不足解消を解消するために断面確保と河川線形を変更する。崩壊しない堅固な護岸を築造する。				
N		活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	安全と安心な河川		河川改修延長	m	改修河川延長	250	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		安全と安心な河川	河川改修延長	m	改修河川延長	250	

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算 又は決算額)	平成30年度 事業計画(予算)	
実 施 状 況	事業費等(a)	円			19,764,000	31,460,400		
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円			19,764,000	31,460,400		
	その他特定財源	円						
	一般財源	円						
	職員数	人			0.20	0.20		
	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人			0.20	0.20			
D O	対象(者)数							
	延利用(者)数(b)							
	単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	354.00	567.00	-	
	活動指標	河川改修延長	目標			250	250	
			実績			70	250	
		達成率	%	-	-	28.00	100.00	-
		-	目標					
	実績							
達成率	%	-	-	-	-	-		
成果指標	河川改修延長	目標			250	250		
		実績			70	250		
	達成率	%	-	-	28.00	100.00	-	
	-	目標						
実績								
達成率	%	-	-	-	-	-		
備考								

事務事業名	自然災害防止事業 北川改修工事	事業期間	平成 28 ~ 30 年度	整理番号	06010310
担当部署	都市建設部 建設課	建設係	作成担当者名	武井英昭	連絡先
					507

期	目標	実績	課題
第1期	地元との調整を図り、民地の寄付交渉を行う。	地元区との協議を実施し、工事に影響する民地の寄付交渉を実施した。	民地の寄付交渉したうち1件が、土地交換を要望したため、土地交換の協議と実施が必要となる。
第2期	民地の寄付交渉したうち1件が、土地交換を要望したため、土地交換の協議を進め登記を実施する。	民地の土地交換について、協議を進めて無事交換登記ができた。	工事発注をする。また、工事に伴う河川申請の提出が必要となる。
第3期	工事発注をする。また、工事に伴う河川申請の提出する。	工事発注が予定どおりできた。また、工事に伴い河川申請が提出できた。	工事契約は終了したが、着手時期や竣工予定を確認し、予定どおり工事完了を目指す。漁業組合との調整が必要である。
第4期	漁業組合との調整を行い、3月に工事完了させる。	漁業組合と調整を実施し、苦情等もなく無事工事を完了した。	今後の河川の維持管理について検討していく必要がある。

事中評価																		
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今後の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td>レ</td> <td></td> </tr> </table>	今後の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	現状維持	③	⑥	⑨	縮小	④	⑧	⑩	休廃止	①	レ	
今後の方向性	成果の方向性		②	⑤	⑦													
	現状維持		③	⑥	⑨													
	縮小		④	⑧	⑩													
	休廃止	①	レ															
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	<table border="1"> <tr> <td>皆減縮小</td> <td>現状維持</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td colspan="3">コスト投入の方向性</td> </tr> </table>	皆減縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性													
皆減縮小	現状維持	拡大																
コスト投入の方向性																		

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	
課題	<p>本事業箇所は北川の河口部であり、1級河川上川との隣接しており兼用護岸にて河川が保護されている。長野県との河川管理区域界の決定が必要なことと公図との不整合をどのように協議していくかが難点である。</p>															
記号の定義	<p>A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	06010310															

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性			

改革・改善の方向性（ACTION）	細施策評価前					細施策評価後					
	成果の方向性	②	⑤	⑦							
現状維持	③	⑥	⑨								
縮小	④	⑧	⑩								
休廃止	①	レ				レ					
皆減縮小	現状維持					拡大					
		コスト投入の方向性					コスト投入の方向性				

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	栗沢橋の拡幅及び栗沢付近の歩道整備促進	事業期間	平成 23 ~ 30 年度	整理番号	05020102
担当部署	都市建設部	建設課	建設関連・バイパス対策係	作成担当者名	五味 義人
				連絡先	522

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	05	国・県道の整備促進
				事務事業	02	栗沢橋の拡幅及び栗沢付近の歩道整備事業
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 02 目 04 事業 01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	県道上榎木矢ヶ線の栗沢橋の拡幅、及び栗沢区内の歩道の整備促進が必要である。				
	現状と背景 （どうして）	栗沢橋付近において、通勤時間帯に交通渋滞が発生しており、通学路に指定されている道路であることから、歩道の整備を促進することが必要である。				
	目的 対 象 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	道路利用者及び沿道住民、学生			
		対象 （直接働きかける）	長野県諏訪建設事務所、行政区及び関係地権者			
	意 図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	事業主体になる長野県諏訪建設事務所に働きかけ、栗沢橋の拡幅及び歩道の整備を行う。				
	手段・方法 （ ど う や っ て ）	行政区からの要望を受け、長野県諏訪建設事務所へ整備促進を要望する。				
N （ ）	活動 指 標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		用地・補償交渉の立会	用地・補償交渉人数	人	建設事務所の要請による	
		道路築造	築造延長	m		250
	成果 指 標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		用地・補償交渉契約件数	契約件	件	契約件数÷地権者数	100
		道路築造	整備率	%	整備済延長/計画全体延長	100

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円				1,704,928	738,624	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円				1,500,000		
その他特定財源	円						
一般財源	円				204,928	738,624	
職員数	人	0.01	0.10	0.10	0.10	0.10	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合 計	人	0.01	0.10	0.10	0.10	0.10	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	31.00	27.00	
D （ ）	活動 指 標	用地・補償交渉人数	目標	人	1	-	
			実績	人	1	-	
		達成率	%	-	-	100.00	0.00
	築造延長	目標	m	45	126	79	
		実績	m	45	126	79	
		達成率	%	-	-	100.00	100.00
-	目標	-					
	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	-
O （ ）	契約件	目標	件	10	1		
		実績	件	8	0	1	
	達成率	%	80.00	0.00	100.00	-	-
	整備率	目標	%				
実績		%					
達成率	%	-	-	-	-	-	
備考	27年度の計画 諏訪建設事務所で残契約の交渉。 28年度の計画 残契約の交渉、用地契約。 29年度の計画 工事着手						

事務事業名	粟沢橋の拡幅及び粟沢付近の歩道整備促進	事業期間	平成 23 ~ 30 年度	整理番号	05020102
担当部署	都市建設部	建設課	建設関連・バイパス対策係	作成担当者名	五味 義人
				連絡先	522

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・工事に伴う個別事案の調整	市道工事との調整	市道等、周辺の工事について今後の進捗に合わせて調整事項が発生すると考えられる。
第2期	・工事に伴う個別事案の調整	才野川工事負担金協定の締結	市道等、周辺の工事について今後の進捗に合わせて調整事項が発生すると考えられる。
第3期	・工事に伴う個別事案の調整	地元説明会の開催 工事着手	市道等、周辺の工事について今後の進捗に合わせて調整事項が発生すると考えられる。
第4期	・工事に伴う個別事案の調整	工期延長の地元への周知	市道等、周辺の工事について今後の進捗に合わせて調整事項が発生すると考えられる。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 工事に伴い発生する調整事項を解決することで、工事の円滑な進捗を目指す。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 今後、先線の計画について周辺の道路計画等と併せて方向性を県と協議し、要望を上げていく。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック																A
課題	工事に伴い、調整事項等が発生する。また、先線の要望にあたり、周辺の道路についてあり方を考えていく必要がある。															
記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	05020102															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	本路線は、通学路に指定されている道路であるが、歩道が整備されていない道路であるため、早期に事業を完成させることが必要な事業である。						本路線は、通学路に指定されている道路であるが、歩道が整備されていない道路であるため、早期に事業を完成させることが必要な事業である。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	拡 充			
	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ	
	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
	休 廃 止	①				休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改革・改善策	計画通り事業が進捗するよう、県、地元の調整を図り協力していく。					計画通り事業が進捗するよう、県、地元の調整を図り協力していく。				

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛 山 和 雄
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	交通安全施設等整備事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	06010408
担当部署	都市建設部 建設課	交通安全係	作成担当者名	寺澤 寛行	連絡先
					512

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	04	交通安全対策の推進
				事務事業	03	安全で快適な交通環境整備事業
	予算事業名	交通安全施設整備事業費		会計コード	001	款 08 項 01 目 02 事業 02
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	交通死亡事故や発生件数が減少傾向にあるとはいえ、いつ事故に遭遇してもおかしくない時代を迎えており、市民に身近な問題でもあることから、交通事故を防止するための一方策として、適切な交通安全施設を設置することによって、交通事故のない安心・安全な道路環境づくりを目指す。				
	現状と背景 （どうして）	道路交通網が高速化・広域化・過密化・連続化（24時間化）し、様々な要因により、交通事故が後を絶たない。 【人身事故発生状況】H23 299件（前年比+14件）H24 271件（前年比-28件）H25 226件（前年比-45件）H26 252件（前年比+26）H27 222件（前年比-30）H28 202件（前年比-20）H29 178件（前年比-24）				
	目的 対象	受益者 （誰のために）	道路利用者			
		対象 （直接働きかける）	交通安全施設			
	的 意図 （どんな状態にしたいか）	より安全な道路環境をつくる。				
	手段・方法 （どうやって）	交通事故発生状況の分析、道路パトロール、住民要望などにより、交通安全施設の必要性を判断して適時適切な交通安全施設の整備を行う。				
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		ガードレール、防護柵	ガードレール等設置距離	m	必要性に応じて設置するものであるため、目標設定になじまない。	
		区画線等の路面標示	区画線等設置延べ距離	m	同上	
		カーブミラー	カーブミラー設置箇所	箇所	同上	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		人身交通事故の減少	人身交通事故非発生率	%	$100 - (\text{事故件数} \div 8,760\text{h}) \times 100$	100

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	18,447,090	17,987,830	17,376,088	17,978,004	20,000,000	
財源内訳							
国庫支出金	円	9,941,000	9,700,000	10,528,000	9,773,000	10,000,000	
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円	8,506,090	8,287,830	6,848,088	8,205,004	10,000,000	
職員数	人	0.75	0.40	0.40	0.40	0.40	
嘱託職員	人		0.40	0.40	0.40	0.40	
臨時職員	人						
合計	人	0.75	0.80	0.80	0.80	0.80	
対象（者）数		55,617	55,705	55,827	55,782	55,782	
延利用（者）数 (b)		55,617	55,705	55,827	55,782	55,782	
単位コスト (a)/(b)	円	332	323	311	322	431	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	329.00	321.00	312.00	324.00	434.00	
D O （ ）	活動指標	ガードレール等設置距離	目標	m			
			実績		126	158	116
		達成率	%				
	区画線等設置延べ距離	目標	m				
		実績		17,734	7,625	12,490	14,051
	達成率	%					
カーブミラー設置箇所	目標	箇所					
	実績		41	33	36	30	
達成率	%						
成果指標	人身交通事故非発生率	目標	%	100	100	100	
		実績		100	97	98	98
	達成率	%		99.98	97.13	97.69	97.97
-	目標						
	実績						
達成率	%						
備考	・対象（者）数は茅野市の人口とした。						

事務事業名	交通安全施設等整備事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06010408
担当部署	都市建設部	建設課	交通安全係	作成担当者名	寺澤 寛行	連絡先	512

期	目 標	実 績	課 題
第1期	ガードレール、カーブミラー設置箇所、区画線引き直し箇所等調査及び発注 突状に合わない幅員規制(1.8m)の規制標識の調査及び撤去	道路反射鏡11件、ガードレール1件、転落防止柵3件、視線誘導標等6件、規制標識の撤去10件他、区画線の引き直し等を実施した。	融雪剤の散布によりミラーだけでなく標識柱も腐食している。
第2期	電力会社電柱占用使用のカーブミラーの調査 要望案件の工事発注、施工	道路反射鏡9基、ガードレール2ヶ所、転落防止柵2ヶ所、注意喚起看板等8ヶ所、他、区画線の引き直しを実施した。 老朽化道路反射鏡の更新についての実施計画策定	当て逃げによる交通安全施設の損壊があり、予算を圧迫している。
第3期	カーブミラーの老朽化による交換箇所の把握 要望案件の工事発注、施工	道路反射鏡7基、ガードレール4ヶ所、転落防止柵1ヶ所、注意喚起看板等7ヶ所、区画線の引き直しを実施した。 老朽化道路反射鏡の更新計画策定。	当て逃げによる交通安全施設の損壊があり、予算を圧迫している。
第4期	新年度における要望箇所の調査と工法の検討	道路反射鏡3基、ガードレール1ヶ所、案内看板2ヶ所を実施した。 老朽化道路反射鏡の更新見積もり依頼。	当て逃げによる交通安全施設の損壊があり、予算を圧迫している。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 当て逃げによる交通安全施設の損壊があり、予算を圧迫している。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 老朽化・鏡面白濁ミラーの更新。 年間20本を計画、5年間で緊急性のあるミラー、機能喪失のあるミラーを優先し改修。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	

課題	多種、多様な要望への費用対効果を含めた対応。	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
		前年度総合評価判定 A
		前年度評価シート整理番号

細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
交通安全をハード面からサポートする事業であり、直接的な効果が期待できる。	交通安全をハード面からサポートする事業であり、直接的な効果が期待できる。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
改革・改善の方向性	成 果 の 方 向 性 拡 充 ② ⑤ ⑦ 現 状 維 持 ③ ⑥ ⑨ 縮 小 ④ ⑧ ⑩ 休 廃 止 ①	成 果 の 方 向 性 拡 充 現 状 維 持 縮 小 休 廃 止
改革・改善策	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性
	要望によっては整備条件が合わないケースがあるが、代替案などによる交通事故抑制を行う。	要望によっては整備条件が合わないケースがあるが、代替案などによる交通事故抑制を行う。

最終評価年月日	平成30年3月31日	最終評価責任者	建設課長
---------	------------	---------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	中大塩幹線道路改良事業	事業期間	平成 26 ~ 30 年度	整理番号	06010303
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	小 阪 和 弘
				連絡先	507

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	03	安全、快適な道路環境整備の推進
				事務事業	02	沿道の設置、カラー舗装事業
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 02 目 03 事業 05
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	歩道の波打ち解消と幅員の確保をするために、車道の嵩上げによるセミフラット式歩道の整備を行い、歩行者の安全確保を図ると同時に路面状況の悪い車道を整備する。				
	現状と背景 （どうして）	現在3ブロック476号線歩道は、マウンドアップ歩道が住宅への乗り入れの影響で波打っていることと、電柱が歩道内に建立されていることから、歩行者の安全な通行が阻害されている。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	3ブロック476号線利用者及び沿線住民			
		対象 （直接働きかける）	沿線の関係者（土地所有者、住民等）			
		意図 （どんな状態にしたいか）	歩行者の安全確保、交通環境の改善			
	手段・方法 （どうやって）	車道のかさ上げ及び歩道形態の変更を伴う改良工事を行う。住宅団地であることと、バス路線であるため地元区との調整も綿密に行いながら実施する。また、準備段階においては、事前にガス管及び上下水道管等の埋設管の管理者とも調整を行いスムーズに本工事が進められようとする。				
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		道路改良	改良延長	m		1,750
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		道路改良	整備率	%	(整備済延長)/(計画整備延長)	100
		電柱移転	移転率	%	(移転本数)/(計画移転本数)	100

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）		
事業費等 (a)	円	14,688,000	91,556,300	39,150,000	96,087,600	10,000,000		
財源内訳								
国庫支出金	円	8,078,400	50,355,000	19,723,000	52,337,000	5,500,000		
地方債	円		37,000,000	17,400,000	38,400,000	4,000,000		
その他特定財源	円							
一般財源	円	6,609,600	4,201,300	2,027,000	5,350,600	500,000		
職員数	人	0.03	0.25	0.25	0.25	0.50		
嘱託職員	人							
臨時職員	人							
合計	人	0.03	0.25	0.25	0.25	0.50		
対象（者）数								
延利用（者）数 (b)								
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	262.00	1,636.00	702.00	1,731.00	248.00		
D O （ ）	活動指標	改良延長	目標	m	200	250	420	90
			実績		250	470	940	90
		達成率	%	—	125.00	188.00	223.81	100.00
	電柱移転数	目標	37	37				
		実績	0	37				
		達成率	%	0.00	100.00	—	—	
—	目標	—	—	—	—	—		
	実績	—	—	—	—	—		
	達成率	%	—	—	—	—		
成果指標	整備率	目標	%	10	11	26	50	100
		実績		0	14	41	95	100
	達成率	%	0.00	127.27	157.69	190.00	100.00	
移転率	目標	%	100	100				
	実績		0	100				
	達成率	%	0.00	100.00	—	—		
備考								

事務事業名	中大塩幹線道路改良事業	事業期間	平成 26 ~ 30 年度	整理番号	06010303
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	小 阪 和 弘
				連絡先	507

期	目 標	実 績	課 題
第1期	交付金内示により施工延長を決め、埋設物の管理者と協議を行う。6月中に業者が決定できるように発注準備を行う。	交付金額により、受注業者を2社として考え、2工区に分けて発注を行った。その調整を行い、工事発注を進めた。	
第2期	地元協議に取り掛かり、受注業者が施工できる状況にする。必要であれば地権者立会、地元説明会等を開催する。	工事契約が1工区7月4日、2工区8月22日となった。地元説明会は行わないものとし、地権者立会は適宜必要な時に行った。	
第3期	工事進捗を確保するために施工段階確認の時期、材料確認等の時期を業者と打合せを行う。	施工時の段階確認を施工計画所にて確認し、予定した。スムーズな立会ができた。	
第4期	入札差金を利用して、残工事を発注する。また工事が竣工を迎えるため、迅速な検査を行う。	残工事については、2工区に増工し、年度内の施工範囲を竣工した。	

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 方 向 性 性
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定						
チェック					4					4					4						

記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定	
前年度評価シート整理番号	

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施	前年度細施策評価における今後の方向性

改 革 ・ 改 善 策	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
成果の方向性	方向性	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩
休 廃 止	休 廃 止	①	レ
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性		

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛 山 和 雄
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	交通安全対策事業	事業期間	平成 29年度	整理番号	06010401
担当部署	都市建設部	作成担当者名	寺澤 寛行	連絡先	512

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法	市民プランにおける位置づけ	政策体系	政策 05 第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり 施策 01 第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実 細施策 04 交通安全対策の推進 事務事業 01 交通安全啓発活動事業			
	予算事業名	予備金	会計コード 001 款 08 項 01 目 02 事業 04			
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	警察、茅野交通安全協会茅野支部、長野県交通安全教育支援センターなどと連携し、交通安全教室での発育段階に応じた実践・体験型の交通安全指導による子どもの交通事故防止、高齢者宅訪問活動、高齢者対象の交通安全教室の開催など交通安全啓発活動を行い高齢者の交通事故防止を図る。また、茅野どんぱん、縄文の里マラソンなどの市民や観光客などが多数参集する催事の安全対策として警察、茅野交通安全協会茅野支部と連携し、交通整理、交通規制看板、バリアードの設置を行い参集者の事故防止を図る。				
	現状と背景 (どうして)	子ども（H27 29件、H28 13件、H29 9件）、高齢者（H27 54件、H28 56件、H29 116件）の交通事故の絶無を期す必要があるが、依然として後を絶たない現状である。 大規模な交通規制を伴う催事には関係機関と連携し交通事故防止と円滑な交通の流れの確保を図っていかなければならぬ道路利用する子ども、高齢者及び催事に参集する参加者				
目的	受益者 (誰のために)	道路利用する子ども、高齢者及び催事会場付近の道路利用者				
	対象 (直接働きかける)	道路利用する子ども、高齢者及び催事会場付近の道路利用者				
手段・方法 (どうやって)	意図 (どんな状態にしたいか)	子どもと高齢者の交通事故の減少。催事等における交通事故の絶無と円滑な交通の流れ				
	方法	(1) 長野県交通安全教育支援センターなどと連携し、発育段階に応じた実践・体験型の交通安全指導による交通安全教室の実施する。 (2) 高齢者交通安全モデル地区（木舟区）を中心に警察、茅野交通安全協会茅野支部と協力し高齢者宅を訪問し、夜光反射材などを配付し、外出時における注意啓発活動を実施する。 (3) 高齢者クラブの総会時に警察、茅野交通安全協会茅野支部、長野県交通安全教育支援センターなどと連携し交通安全教室を開催する。 (4) 交通規制計画の参画 交通規制看板 バリアード 規制標識の設置と円滑な交通整理				
N 評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		子どもの交通安全意識の高揚	交通安全教室	回	市職員の派遣申請に基づき、内容、人員等を勘案して実施しており、一概に目標設定できない	
		高齢者の交通事故意識の高揚	高齢者宅訪問件数	軒	安全協会が訪問地区を決定しているため、一概に目標設定できない	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		子どもの人身交通事故の減少	子どもの人身交通事故件数	件	前年件数の5%減少	12
		高齢者の人身交通事故の減少	高齢者の人身交通事故件数	件	前年件数の5%減少	53

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算又は決算額)	平成30年度事業計画(予算)	
事業費等(a)	円	5,458,000	4,901,553	4,836,805	5,012,760	4,914,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円	5,458,000	4,901,553	4,836,805	5,012,760	4,914,000	
職員数	人						
正規職員	人	1.60	0.80	0.80	0.80	0.80	
嘱託職員	人		0.80	0.80	0.80	0.80	
臨時職員	人						
合計	人	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60	
対象(者)数		55,617	55,617	55,705	55,827	55,782	
延利用(者)数(b)		55,617	55,617	55,705	55,827	55,782	
単位コスト(a)/(b)	円	98	88	87	90	234	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	97.00	88.00	87.00	90.00	235.00	
D 活 動 指 標	交通安全教室	目標	回	60	60	60	
		実績	回	65	64	64	65
	高齢者宅訪問件数	目標	軒	106.67	106.67	108.33	100.00
		実績	軒	230	150	100	100
	安全な交通規制計画	目標	件	100.00	100.00	100.00	100.00
		実績	件	—	—	—	—
O 成 果 指 標	子どもの人身交通事故件数	目標	件	25	13	12	9
		実績	件	17	14	13	9
	高齢者の人身交通事故件数	目標	件	60.71	56.00	97.74	75.00
		実績	件	70	60	96	53
	達成率	達成率	%	60.71	56.00	97.74	75.00
		達成率	%	115.71	168.33	58.36	218.87

備考

事務事業名	交通安全対策事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06010401
担当部署	都市建設部	建設課	交通安全係	作成担当者名	寺澤 寛行	連絡先	512

期	目標	実績	課題
第1期	小学校、保育園、幼稚園の交通安全教室の実施。 春の交通安全運動期間中に高齢者宅訪問を実施し、交通安全に対する意識を向上させる。	小学校9校(15回)、保育園・幼稚園19園、PTA2区に対し安全教室を実施。 高齢者交通安全モデル地区を金沢木舟区に指定し、春の交通安全運動で、高齢者宅訪問実施。	茅野市において交通死亡事故1件発生。1名死亡。
第2期	夏の交通安全やまひこ運動に併せて交通安全意識の向上を図る。 高齢者クラブの総会で交通安全教室開催。 秋の交通安全運動期間中に高齢者宅訪問を実施。	小学校1校、PTA3区、高齢者クラブ1、対し安全教室を実施。 高齢者交通安全モデル地区木舟区にて、秋の交通安全運動で、高齢者宅を訪問した。	茅野市において交通死亡事故1件発生。1名死亡(内高齢者1名)。 路面標示の更新。 高齢者の夜間の反射材着用の推進。
第3期	交通安全メッセージカード作成配付により家庭における交通安全意識の向上を図る。年末の交通安全運動に、飲酒運転の根絶、シートベルト、チャイルドシート装着を呼び掛ける。	交通安全メッセージカード(小学2年492名に依頼)を配付し家庭における交通安全意識の向上を図った。 小学校1校、高齢者クラブ2に対し安全教室を実施。	飲酒運転の根絶。 シートベルト全席着用、チャイルドシート装着の徹底。 高齢者の交通安全意識の徹底。
第4期	保育園幼稚園にて年長児対象の交通安全教室を開催し、交通ルールの徹底を図る。(小学校入学に向けて)次年度の小学校・保育園の交通安全教室の受付準備。	子どもの人身事故減少。 高齢者の事故大幅増。 死亡事故ゼロ200日突破。	飲酒運転の根絶。 シートベルト全席着用、チャイルドシート装着の徹底。 高齢者の交通安全意識の徹底。

事中評価																						
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 ・高齢者の交通事故防止対策、高齢運転者の免許返納の推進。 ・飲酒運転根絶の徹底。	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今後の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>拡充</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今後の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	拡充	③	⑥	⑨	現状維持	④	⑧	⑩	縮小	①			休廃止			
今後の方向性	成果の方向性		②	⑤	⑦																	
	拡充		③	⑥	⑨																	
	現状維持		④	⑧	⑩																	
	縮小	①																				
休廃止																						
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																					

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	
チェック					4					4					4	

課題	(1) 子ども、高齢者の交通弱者の保護 (2) 安全かつ効果的な交通対策の確立	記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要
		前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号

総合評価	細施策評価前	細施策評価後
	(1) 交通弱者を巻き込む事故は依然として増加傾向にある。継続的な遂行が必要である。 (2) 催事での交通渋滞、交通事故防止のための必要である。	(1) 交通弱者を巻き込む事故は依然として増加傾向にある。継続的な遂行が必要である。 (2) 催事での交通渋滞、交通事故防止のための必要である。
	前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性	細施策評価前	細施策評価後																																
成果の方向性	<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充	②	⑤	⑦	現状維持	③	⑥	⑨	縮小	④	⑧	⑩	休廃止	①			<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td>レ</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充				現状維持			レ	縮小				休廃止			
拡充	②	⑤	⑦																															
現状維持	③	⑥	⑨																															
縮小	④	⑧	⑩																															
休廃止	①																																	
拡充																																		
現状維持			レ																															
縮小																																		
休廃止																																		
方向性	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																																

改革・改善策	(1) 関係機関との連携を密にし、継続的な事業実施を行う。 (2) 関係機関との事前打合せの徹底と規制方法の見直し。	(1) 関係機関との連携を密にし、継続的な事業実施を行う。 (2) 関係機関との事前打合せの徹底と規制方法の見直し。
--------	---	---

最終評価年月日	平成30年3月31日	最終評価責任者	建設課長
---------	------------	---------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	茅野駅前自転車駐輪場管理事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	06010411
担当部署	都市建設部	建設課	交通安全係	作成担当者名	寺澤寛行
				連絡先	512

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり						
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実						
				細施策	04	交通安全対策の推進						
				事務事業	03	安全で快適な交通環境整備事業						
	予算事業名	茅野駅前自転車駐輪場管理費		会計コード	001	款	08	項	01	目	02	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	茅野駅前にある東口駐輪場、西口駐輪場の2箇所の駐輪場の、朝夕の通勤時間帯における整理整頓、場内清掃、盗難防止、放置自転車の片付け等の管理を行う。											
現状と背景 （どうして）	駐輪場の自転車が無造作・無秩序に置かれたり、ゴミの投げ捨てなども時折見られ、茅野市の玄関口としての駅前の秩序維持を図る必要がある。											
目的	対象	受益者 （誰のために）	茅野市民・市内通勤通学による利用者									
	対象	対象 （直接働きかける）	茅野駅前自転車駐輪場									
的	意図 （どんな状態にしたいか）	秩序正しい整然とした環境										
	手段・方法 （どうやって）	（社）茅野広域シルバー人材センターへの委託事業として、同センター職員2名で、平日の午前7時～10時、午後3時～6時の間、駐輪場内の自転車・バイク等の整理整頓、場内清掃、除雪、盗難防止、放置自転車の片付け等の管理を行う。										
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値			
		放置自転車の撤去	撤去台数	台	撤去台数の多さは目標値設定にはなじまない。							
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値			
		整然とした茅野駅前駐輪場	数字的表現が困難									

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円	1,722,063	1,705,257	1,775,724	1,813,413	2,036,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	1,722,063	1,705,257	1,775,724	1,813,413	2,036,000	
	職員数							
	正規職員	人	0.15	0.15	0.10	0.10	0.10	
	嘱託職員	人			0.10	0.10	0.10	
臨時職員	人							
合計	人	0.15	0.15	0.20	0.20	0.20		
対象（者）数		879	879	879	876	876		
延利用（者）数 (b)		879	879	879	876	876		
単位コスト (a)/(b)	円	1,959	1,940	2,020	2,070	3,484		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	31.00	30.00	32.00	33.00	55.00		
O （ ）	活動指標	撤去台数	目標	台				
			実績		46	29	43	27
		達成率	%		-	-	-	-
		-	目標	-				
			実績	-				
		達成率	%		-	-	-	-
	成果指標	数字的表現が困難	目標	-				
			実績	-				
		達成率	%		-	-	-	-
		-	目標	-				
			実績	-				
		達成率	%		-	-	-	-
備考	・対象（者）数は、収容能力 東口 自転車578台、身障者用1台、原付47台 西口 自転車240台、原付10台 合計876とした。							

事務事業名	茅野駅前自転車駐輪場管理事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06010411
担当部署	都市建設部	建設課	交通安全係	作成担当者名	寺澤 寛行	連絡先	512

期	目標	実績	課題
第1期	放置自転車の把握と撤去。	長期放置自転車の把握と盗難車確認。	乗り入れ禁止区間の歩道から駐輪場まで、乗ったまま入場する利用者がいる。道路交通法の改正により歩道走行の自転車の指導を強化。
第2期	放置自転車の防止。 秩序ある施設利用の指導。(ラック外への駐輪禁止・乗車しての施設進入の防止)	管理人による入場時指導の実施。	いたずら・盗難防止のため、駅前交番に巡回依頼。
第3期	放置自転車の把握と撤去。	長期放置自転車の把握と所有者への撤去要請実施。	放置自転車の所有者への撤去要請通知発送。防犯登録がなく、連絡不能な自転車が、要請方法がない。
第4期	降雪時の駐輪場の除雪。 高校卒業式以降の放置自転車への警告書取り付け。	東口駐輪場15台、西口駐輪場12台、計27台撤去。 駐輪場除雪3回実施。	高校卒業後に放置するケースが多い。学校等でも啓発していただいているが、減らない。

事中評価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今後の方向性 成果の方向性 ① 皆減縮小 ② 現状維持 ③ 縮小 ④ 休廃止 ⑤ 皆減縮小 ⑥ 現状維持 ⑦ 拡大 ⑧ 現状維持 ⑨ 縮小 ⑩ 休廃止 ⑪ 皆減縮小 ⑫ 現状維持 ⑬ 拡大 コスト投入の方向性
所有者不明の自転車が、多い。 所有者が判明しても再三の撤去要請に応じない所有者がいる。 乗り入れ禁止区間の歩道から駐輪場まで、乗ったまま入場する利用者がいる。	
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	
放置自転車のほぼ100%がバンクしている。 バンク車両を放置自転車と認定して警告書付けするようにし、管理人のチェックを簡略化させる。	

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	
チェック					4					4					4	

課題	放置自転車への対策推進と利用者しやすい環境の整備	記号の定義 A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要 前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号
	総合評価	
	前年度改革・改善策の実施状況	

細施策評価前	細施策評価後
駐輪場での放置、盗難抑制に必要。	駐輪場での放置、盗難抑制に必要。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性(ACTION)	細施策評価前	細施策評価後
状況に応じた柔軟な対応。	成果の方向性 ① 皆減縮小 ② 現状維持 ③ 縮小 ④ 休廃止 ⑤ 皆減縮小 ⑥ 現状維持 ⑦ 拡大 ⑧ 現状維持 ⑨ 縮小 ⑩ 休廃止 ⑪ 皆減縮小 ⑫ 現状維持 ⑬ 拡大 コスト投入の方向性	成果の方向性 ① 皆減縮小 ② 現状維持 ③ 縮小 ④ 休廃止 ⑤ 皆減縮小 ⑥ 現状維持 ⑦ 拡大 ⑧ 現状維持 ⑨ 縮小 ⑩ 休廃止 ⑪ 皆減縮小 ⑫ 現状維持 ⑬ 拡大 コスト投入の方向性
状況に応じた柔軟な対応。	状況に応じた柔軟な対応。	

最終評価年月日		最終評価責任者	建設課長
---------	--	---------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	県道弘沢茅野線・宮川地区の整備	事業期間	平成 24 ~ 33 年度	整理番号	06010601
担当部署	都市建設部	建設課	建設関連・バイパス対策係	作成担当者名	大谷 勝己
				連絡先	522

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	05	国・県道の整備促進
				事務事業	01	県道弘沢茅野線・宮川茅野の整備事業
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 02 目 04 事業 01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	国道20号坂室バイパスの開通により急がれる事業です。県道を含めた区画整理事業も実施されています。				
	現状と背景 （どうして）	国道20号坂室バイパスの建設により、交差点の位置が変わり市街地への幹線道路として、都市環境の形成を図るため県道弘沢茅野線の整備が必要である。				
	目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	道路利用者、沿線住民			
		対象 （直接働きかける）	長野県諏訪建設事務所、行政区及び関係地権者			
		意図 （どんな状態にしたいか）	県道弘沢茅野線の内、上川橋から旧国道20号方面（区画整理事業界）までの310m区間の道路築造を行う。			
	手段・方法 （どうやって）	地元と県の調整。説明会の開催、現場立会い。				
N （ ）	活動指標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		用地・補償交渉の立会	用地・補償交渉人数	人	建設事務所の要請による	
		道路築造	築造延長	m		310
	成果 指 標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		用地・補償交渉契約件数	契約件	件	契約件数÷地権者数	100
		事業計画	整備率	%	（当年度整備計画） / （事業全体整備計画）	100

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円						
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円						
職員数	人	0.05	0.20	0.20	0.20	0.20	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人	0.05	0.20	0.20	0.20	0.20	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	-	27.00	
D （ ）	活動指標	用地・補償交渉人数	目標	人			
			実績				
	築造延長	目標	m				
		実績					
	-	目標	-				
		実績					
O （ ）	成果指標	契約件	目標	件	30	34	2
			実績		20	34	2
	整備率	目標	%				
		実績		66.67	100.00	100.00	
		目標	%				
		実績		-	-	-	-
備考	27年度の計画 用地交渉並びに買収。工事着手 28年度の計画 道路築造並びに橋梁仮設橋架設工事 29年度の計画 道路築造並びに橋梁下部工事						

事務事業名	県道弘沢茅野線・宮川地区の整備	事業期間	平成 24 ~ 33 年度	整理番号	06010601
担当部署	都市建設部	建設課	建設関連・バイパス対策係	作成担当者名	大谷 勝己
				連絡先	522

期 第 1 期	目 標	実 績	課 題			
	・工事实施(橋撤去・道路築造、地下埋設)	・歩道設置ほか	・特になし			
	・工事实施(橋撤去・道路築造、地下埋設)	・歩道設置ほか	・特になし			
	・工事实施(橋撤去・橋脚築造、道路築造、地下埋設)	・歩道設置、地元説明会開催	・特になし			
	・工事实施(橋撤去・橋脚築造、道路築造、地下埋設)	・歩道設置ほか	・特になし			
事 中 評 価						
管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性	成 果 的 拡 充	②	⑤	⑦
	特になし		現 状 維 持	③	⑥	⑨
			縮 小	④	⑧	⑩
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)		休 廃 止	①		
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性						

評価年度		当年度														総合評価判定	
評 価 の 観 点	視 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					A
		1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
	チェック					4					4					4	
課 題 (C H E C K)	事業が計画通り進捗するよう、地権者及び地域住民へ連絡、協力を呼びかけるよう調整を図っていく。															記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要	
	前年度総合評価判定															前年度評価シート整理番号 05020101	
改 革 ・ 改 善 策 (A C T I O N)	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前							細 施 策 評 価 後								
	成果の方向性	成 果 的 拡 充	②	⑤	⑦	現 状 維 持	③	⑥	⑨	成 果 的 拡 充				現 状 維 持			⑨
	縮 小	④	⑧	⑩	休 廃 止	①			縮 小				休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性																
	H30年度には、本格的に上川橋の架橋工事が始まる。引き続き、県と連携して事業の促進に努める。	H30年度には、本格的に上川橋の架橋工事が始まる。引き続き、県と連携して事業の促進に努める。															

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課	牛山和雄
---------	------------	---------	-----	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	湯川バイパスの整備事業	事業期間	平成 26 ~ 33 年度	整理番号	06016103
担当部署	都市建設部	建設課	建設関連・バイパス対策係	作成担当者名	大谷 勝己
				連絡先	522

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	05	国・県道の整備促進
				事務事業	03	湯川バイパスの整備事業
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 02 目 04 事業 01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	柏原バイパスの先線が生活道路と重複しているため、新たにバイパスを作り、生活道路と分けたい。				
	現状と背景 （どうして）	観光地を控え道路幅員が狭く、観光シーズンは渋滞がはげしいため、早期事業完了が必要。				
	目的	対象	受益者 （誰のために）	道路利用者、沿線住民		
			対象 （直接働きかける）	長野県諏訪建設事務所		
		意図 （どんな状態にしたいか）	湯川バイパスの整備により円滑な交通体系に同時に歩道整備も行っていきたい。			
	手段・方法 （どうやって）	地元区からの要望を受け諏訪建設事務所へ早期事業着手へ要望する。地元委員会で、検討し、地権者の協力を得て事業を行う。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		整備計画	整備延長	m	バイパスの整備計画延長	2,600
		計画への課題協議	協議実施回数	回	地元建設委員会・県・市による協議	8
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		事業計画	進捗率	%	事業全体計画/当年度計画	100
		課題協議	進捗率	%		100

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円				407,181	407,181	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円				407,181	407,181	
	職員数							
	正規職員	人	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50		
	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	7.00	75.00	
O （ ）	活動指標	整備延長	目標	m				
		実績						
		達成率	%	-	-	-	-	-
	協議実施回数	目標	回	3	11	8	10	10
		実績		3	11	8	10	10
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	成果指標	進捗率	目標	%				
			実績					
		達成率	%	-	-	-	-	-
		進捗率	目標	%	100	100	100	100
実績				100	100	100	100	
達成率		%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
備考	27年度の計画 詳細設計、用地測量を行う。 28年度の計画 用地単価発表、用地買収。一部工事着手 29年度の計画 工事実施							

事務事業名	湯川バイパスの整備事業	事業期間	平成 26 ~ 33 年度	整理番号	06016103
担当部署	都市建設部	建設課	建設関連・バイパス対策係	作成担当者名	大谷 勝己
				連絡先	522

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・工事実施、橋梁詳細設計。 ・建設委員会開催。	・工事実施、橋梁詳細設計。 ・建設委員会開催。	特になし
第2期	・工事実施、橋梁詳細設計。	・工事実施、橋梁詳細設計。	特になし
第3期	・工事実施、橋梁詳細設計。	・工事実施、橋梁詳細設計。	特になし
第4期	・工事実施、橋梁詳細設計。	・工事実施、橋梁詳細設計。	特になし

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
特になし	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ①
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性
特になし	

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課 題	県の予算により事業量が左右される。	記 号 の 定 義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定		
前年度評価シート整理番号	05020103	

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	北山芹ヶ沢地区及び北山湯川地区を通る国道152号は、狭隘な道路であり、また、歩道の整備が遅れている道路であることから、円滑な交通の確保と歩行者等の安全対策のため、早期事業完成させる必要がある。						北山芹ヶ沢地区及び北山湯川地区を通る国道152号は、狭隘な道路であり、また、歩道の整備が遅れている道路であることから、円滑な交通の確保と歩行者等の安全対策のため、早期事業完成させる必要がある。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	拡 充			
方向性	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ	
性	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
	休 廃 止	①				休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

今後、県と連携して計画どおり事業を進捗させ、地元建設委員会と県と市で課題の解決に努める。	今後、県と連携して計画どおり事業を進捗させ、地元建設委員会と県と市で課題の解決に努める。
--	--

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	国・県土木事業の整備促進			事業期間	平成	～	年度	整理番号	05020106				
担当部署	都市建設部	建設課	建設関連・バイパス対策係	作成担当者名	五味 義人			連絡先	522				
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
			施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実								
			細施策	05	国・県道の整備促進								
			事務事業	06	-								
	予算事業名			会計コード	001	款	08	項	02	目	04	事業	01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	国、県（諏訪建設事務所）が実施する道路・河川などの建設事業について、市の窓口として、関係する区、自治会及び地権者との連絡調整を行っている。 また、行政区からの要望箇所を国、県へ進達し修繕、改良を図っていただくよう要望し、事業に際す工事負担金事務を行っている。											
	現状と背景 （どうして）	国の土木機関、長野県諏訪建設事務所が実施する建設事業について地元への依頼事項、あるいは地元からの要望事項などの連絡調整を図る市の窓口として、事業の円滑な進行を目的に事務を行っている。											
	目的 対 象 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	利用者及び隣接住民。										
		対象 （直接働きかける）	国の土木機関、長野県諏訪建設事務所及び区、自治会、関係地権者。										
	意図 （どんな状態にしたいか）	事業主体の国の土木機関、長野県諏訪建設事務所と区、自治会、及び地権者との連絡調整をして事業の円滑な進行を図る。											
	手段・方法 （どうやって）	事業説明会の開催。区、地権者個々の要望の伝達。現場立会。											
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		事業・工事説明会	説明会数	回	事業主体の要請に応じて								
	現場立会	現場立会数	回	事業主体及び関係者の要請に応じて									
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
					事務事業の性格上数値の算出は困難である。								

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）			
事業費等 (a)	円	7,751,552	6,834,376	7,838,490	9,094,416	7,972,000			
財源内訳									
国庫支出金	円								
県支出金	円								
地方債	円	6,900,000		7,000,000		7,100,000			
その他特定財源	円								
一般財源	円	851,552	6,834,376	838,490	9,094,416	872,000			
職員数	人	0.25	0.39	0.39	0.39	0.39			
正規職員	人								
嘱託職員	人								
臨時職員	人								
合計	人	0.25	0.39	0.39	0.39	0.39			
対象（者）数									
延利用（者）数 (b)									
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-			
受益者負担額	円								
市民一人当たりのコスト	円	138.00	122.00	141.00	164.00	197.00			
D O （ ）	活動指標	説明会数	目標	回	14	18	20	20	20
			実績	回	14	18	20	20	20
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
	現場立会数	目標	回	40	45	45	40	40	
実績		回	40	45	45	40	40		
達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00			
成果指標	-	目標	-	-	-	-	-		
		実績	-	-	-	-	-		
	達成率	%	-	-	-	-	-		
	目標	-	-	-	-	-			
実績	-	-	-	-	-				
達成率	%	-	-	-	-				
備考	国・県が実施主体となる事業の調整事務のため、成果指標の主目的設定は困難。								

事務事業名	国・県土木事業の整備促進	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05020106
担当部署	都市建設部	建設課	建設関連・バイパス対策係	作成担当者名	五味 義人	連絡先	522

期	目 標	実 績	課 題
第1期	行政区からの要望箇所の踏査、要望書の進達、現地立合い、地区説明会 各種業務の関連調整	行政区要望箇所の踏査、要望書の進達を行う(21件) 現地立合い、地区説明会の実施(随時) 各種業務の関連調整を実施(随時)	行政区要望の維持修繕要望は、要望数も多く寄せられ、全ての要望に対応できない
第2期	行政区からの要望箇所の踏査、要望書の進達、現地立合い、地区説明会 各種業務の関連調整	行政区要望箇所の踏査、要望書の進達を行う(4件) 現地立合い、地区説明会の実施(随時) 各種業務の関連調整を実施(随時)	行政区要望の維持修繕要望は、要望数も多く寄せられ、全ての要望に対応できない
第3期	行政区からの要望箇所の踏査、要望書の進達、現地立合い、地区説明会 各種業務の関連調整	行政区要望箇所の踏査、要望書の進達を行う(8件) 現地立合い、地区説明会の実施(随時) 各種業務の関連調整を実施(随時)	行政区要望の維持修繕要望は、要望数も多く寄せられ、全ての要望に対応できない
第4期	行政区からの要望箇所の踏査、要望書の進達、現地立合い、地区説明会 各種業務の関連調整	行政区要望箇所の踏査、要望書の進達を行う(14件) 現地立合い、地区説明会の実施(随時) 各種業務の関連調整を実施(随時)	行政区要望の維持修繕要望は、要望数も多く寄せられ、全ての要望に対応できない

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 行政区要望の大半は、維持修繕に関する要望である。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 維持修繕要望以外の事業については、計画通り事業が進捗するよう、県、地元の調整を図り協力していく。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定						
チェック																					A
課 題	行政区要望の大半は、維持修繕に関する要望である。維持修繕要望以外の事業については、計画通り事業が進捗するよう、県、地元の調整を図り協力していく。															記号の定義 A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要					
前年度総合評価判定																					
前年度評価シート整理番号																05020112					

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	維持修繕要望以外の事業については、計画通り事業が進捗するよう、県、地元の調整を図り協力していく。						維持修繕要望以外の事業については、計画通り事業が進捗するよう、県、地元の調整を図り協力していく。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策 (ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後						
	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	拡 充		②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性	拡 充			
	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持				⑨		
	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小						
	休 廃 止	①				休 廃 止						
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性						
改 革 ・ 改 善 策	計画通り事業が進捗するよう、県、地元の調整を図り協力していく。					計画通り事業が進捗するよう、県、地元の調整を図り協力していく。						

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛 山 和 雄
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	国道20号バイパス整備促進			事業期間	平成	～	年度	整理番号	06010605					
担当部署	都市建設部	建設課	建設関連・バイパス対策係	作成担当者名	大谷 勝己			連絡先	522					
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり								
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実								
				細施策	05	国・県道の整備促進								
				事務事業	05	国道20号バイパス整備事業								
	予算事業名				会計コード	001	款	08	項	02	目	04	事業	01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	国土交通省長野国道事務所が、直轄事業として国道20号坂室バイパス建設事業を施行している。この影響範囲には、諏訪建設事務所が施工する県道岡谷茅野線も含まれる。茅野市は、地元と長野国道事務所、諏訪建設事務所との調整を図っている。現道、バイパス及び4車線化計画は、用地幅杭の設置、境界確認が概ね終了し、用地買収が始まっている。												
	現状と背景 （どうして）	国道20号坂室バイパスは、中河原交差点での交通渋滞が激しく、4車線化の早期開通が望まれている。この事業に対し、地元自治体として施策の実現や課題の解決を図る上で、各関係者を調整し、効率的に行う必要があるため。												
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	国道利用者											
		対象	坂室バイパス4車線化に掛る地権者、地元役員会及び長野国道事務所、諏訪建設事務所											
		意図	長野国道事務所、諏訪建設事務所と地元役員会、地権者及び市関係部局との連絡調整をして坂室バイパス4車線化の円滑な進行を図る。											
	手段・方法 （どうやって）	茅野区、中河原区それぞれの委員会を中心に、長野国道事務所や諏訪建設事務所と地元や地権者との協議を円滑に進める。												
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		整備計画	整備区間	m	バイパスの整備計画区間				680					
		計画案への課題協議	協議実施回数	回	委員会、長野国道事務所、市による				10					
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		事業計画	進捗率	%					100					
		課題協議	進捗率	%					100					

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円				5,194,000	
	財源内訳						
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円				5,194,000	
	職員数	人	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
	正規職員	人					
	嘱託職員	人					
臨時職員	人						
合計	人	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	
	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	94.00	109.00
活 動 指 標 （ ）	整備区間	目標	m				
		実績					
		達成率	%	-	-	-	-
	協議実施回数	目標	回	10	10	10	10
		実績		10	12	17	20
		達成率	%	100.00	120.00	170.00	200.00
	-	目標					
		実績					
		達成率	%	-	-	-	-
	成 果 指 標 （ ）	進捗率	目標	%			
実績							
達成率		%	-	-	-	-	
進捗率		目標	%	100	100	100	100
	実績		100	100	100	100	
達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
備考							

事務事業名	国道20号バイパス整備促進	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06010605
担当部署	都市建設部	建設課	建設関連・バイパス対策係	作成担当者名	大谷 勝己	連絡先	522

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・用地買収の調整 ・関連事業の調整 ・バリアフリー基本構想策定協議会開催	・用地買収の調整 ・関連事業の調整 ・バリアフリー基本構想策定協議会開催	地元及び関連機関との調整
第2期	・用地買収の調整 ・関連事業の調整 ・バリアフリー基本構想策定協議会開催	・用地買収の調整 ・関連事業の調整 ・バリアフリー基本構想策定協議会開催	地元及び関連機関との調整
第3期	・用地買収の調整 ・関連事業の調整 ・バリアフリー基本構想策定にかかる関連機関との協議	・用地買収の調整 ・関連事業の調整 ・バリアフリー基本構想策定にかかる関連機関との協議	地元及び関連機関との調整
第4期	・用地買収の調整 ・関連事業の調整 ・バリアフリー基本構想策定	・用地買収の調整 ・関連事業の調整 ・バリアフリー基本構想策定	地元及び関連機関との調整

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 地元及び関連機関との調整を求められている。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 用地交渉の事務委託を受託することを決定した。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	用地交渉を円滑に進めること。															
記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	05020106															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	中河原交差点を中心とした慢性的な交通渋滞を解消するために、4車線化事業の必要性を説明して、事業の早期着手に努める必要がある。						中河原交差点を中心とした慢性的な交通渋滞を解消するために、4車線化事業の必要性を説明して、事業の早期着手に努める必要がある。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	用地買収においては、地権者の同意を得るよう国や県と対策委員会と調整を図り、課題を解決しつつ、粘り強く事業の促進に努める。						用地買収においては、地権者の同意を得るよう国や県と対策委員会と調整を図り、課題を解決しつつ、粘り強く事業の促進に努める。			
今後の方向性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	上川橋線他整備事業（県道）			事業期間	平成 13 ~ 33 年度	整理番号	06020101
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	黒澤俊彦	連絡先	532
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり	
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実	
				細施策	06	都市計画道路の整備	
				事務事業	01	上川橋線整備事業	
予算事業名						会計コード	001 款 08 項 04 目 01 事業 05
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	長野県が行う街路事業に対して、事業費の一部を決められた率により負担し、その事業の推進を図っています。該当路線は、市街地骨格道路として茅野駅へのアクセス性の向上と沿道環境の整備のために実施するものです。 ＜対象路線＞ H27年度：上川橋線（宮川茅野区画整理関連）、上川橋線（宮川茅野）						
現状と背景 （どうして）	県道の整備により安全、円滑な交通機能の確保と茅野駅周辺の都市機能の再生を目指します。このことで利益を受ける茅野市が、工事に要する費用の一部を負担するものです。（道路法、地方財政法）						
目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	市民、来街者、道路利用者					
	対象 （直接働きかける）	長野県、地域住民					
手段・方法 （どうやって）	意図 （どんな状態にしたいか）	県道である茅野市内の都市計画道路の整備を推進し、安全・円滑な交通と快適環境を確保します。また、茅野駅周辺の都市機能の再生を図ります。					
		・茅野市は、長野県が施行する街路整備事業に要する費用の一定割合を負担し、事業推進の円滑化を図ります。 補助事業の際の負担金：10% 県単独事業の際の負担金：15%					
N （ ）	活動指標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など		最終目標値
		予算に対する負担金の納付額	納入負担金額	円	事業執行状況（%）＝負担金額／予算金額		100
	成果 指 標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など		最終目標値
		都市計画道路の整備状況	整備（進捗）率	%	当年度事業費/全体事業費		100

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）		
事業費等 (a)	円	68,270,000	55,997,057	37,743,485	97,032,275	86,500,000		
財源内訳								
国庫支出金	円							
県支出金	円							
地方債	円	61,443,000	35,343,000	35,349,441	87,400,000	77,800,000		
その他特定財源	円							
一般財源	円	6,827,000	20,654,057	2,394,044	9,632,275	8,700,000		
職員数	人							
正規職員	人	0.10	0.10	0.10	0.20	0.20		
嘱託職員	人							
臨時職員	人							
合計	人	0.10	0.10	0.10	0.20	0.20		
対象（者）数		55,561	55,435	55,827	55,737	55,782		
延利用（者）数 (b)		55,561	55,435	55,827	55,737	55,782		
単位コスト (a)/(b)	円	1,229	1,010	676	1,741	1,578		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	1,216.00	1,000.00	677.00	1,748.00	1,589.00		
D （ ）	活動指標	納入負担金額	目標 円	68,270,000	39,270,000	38,450,000	46,950,000	86,500,000
		実績 円	68,270,000	55,997,057	37,743,485	97,032,275	86,500,000	
	達成率 %	100.00	142.60	98.16	206.67	100.00		
	—	目標 —						
—	実績 —							
—	達成率 %	—	—	—	—	—		
O （ ）	成果指標	整備（進捗）率	目標 %	41	56	64	71	85
		実績 %	41	56	64	75	85	
	達成率 %	100.00	100.00	100.00	105.63	100.00		
	—	目標 —						
—	実績 —							
—	達成率 %	—	—	—	—	—		
備考	「対象(者)数」及び (f)の「延利用(者)数」の数値については、本事務が不特定多数に影響を及ぼすものでその数値を把握できないため、「市の人口」を用いることとした。							

事務事業名	上川橋線他整備事業（県道）	事業期間	平成 13 ~ 33 年度	整理番号	06020101
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	黒澤俊彦
				連絡先	532

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・旧橋上部工L=76m解体工事 ・旧橋下部工6基解体工事 ・上川橋線歩道整備及び電線共同溝整備工事	・上部工の解体工事実施中 ・下部工の解体工事実施中 ・上川橋線歩道整備及び電線共同溝整備工事実施中	・解体工事による振動・騒音など、隣接者への配慮
第2期	・旧橋上下部工解体工事完了 ・新橋上部工L=86m工事発注準備 ・新橋下部工4基工事発注 ・上川橋線歩道整備及び電線共同溝整備工事	・旧橋上下部工解体工事完了 ・新橋上部工の工事発注準備 ・新橋下部工の工事発注 ・上川橋線歩道整備及び電線共同溝整備工事完了	・解体工事による振動・騒音など、隣接者への配慮 ・通過交通の安全確保
第3期	・新橋上部工L=86m工事発注 ・新橋下部工4基工事実施	・新橋上部工工場製作実施中 ・新橋下部工工事実施中	・下部工が河川内同一現場の為、狭隘なスペースでの施工は、安全確保と調整及び連絡周知が必要
第4期	・新橋上部工工場製作実施 ・新橋下部工工事実施 ・電線共同溝工事発注	・新橋上部工工場製作実施中 ・新橋下部工工事実施中 ・電線共同溝工事発注	・積雪や凍結等の路面環境から歩行者、車両の交通安全の確保

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 ・構造物の解体作業に伴う新たな振動、騒音による施行への対策。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） ・平成31年6月の新橋供用開始へ向け、県に早期完了を要望していく。	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 の 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課 題	県の道路整備の優先順位及び財源により、事業量が左右されます。	記 号 の 定 義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
		前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号 05010601

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
		県道は、主要幹線としての都市計画道路であり、市及び地域住民の方々にとって早期完成が望まれています。県と市の事業方針に基づき、街路事業を推進することが適切と考えます。					上川橋線は、主要幹線としての都市計画道路であり、市及び地域住民の方々にとって早期完成が望まれています。県と市の事業方針に基づき、街路事業を推進することが適切と考えます。			
	前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性	拡 充		
		現 状 維 持	③	⑥	⑨		現 状 維 持	レ		
		縮 小	④	⑧	⑩		縮 小			
		休 廃 止	①				休 廃 止			
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性		
改 革 ・ 改 善 策	県と連携のもと地元の理解を得ながら事業を進める。					引き続き県と連携のもと、地元の理解、地調整をしながら進めます。				

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	都市計画課長	田中正貴
---------	------------	---------	--------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	快適環境整備事業	事業期間	平成 8 ~ 年度	整理番号	06020102
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	宮坂 悠哉
				連絡先	534

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	06	都市計画道路の整備
				事務事業	04	快適環境整備事業
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 04 目 02 事業 01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	都市計画道路の街路樹、街路灯やその他付帯施設の維持管理を適切に行い、車両や歩行者の交通の安全と沿道の快適環境を確保します。				
	現状と背景 （どうして）	街路樹について病害虫の発生は木を衰えさせ、木の根元の雑草は景観を害し、車道や歩道に張り出した枝は安全な通行の支障となります。また、街路灯の故障、施設の破損は、通行の安全性の低下となるとともに街の良好な環境を損ないますので、整備を行っていく必要があります。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	受益者 （誰のために）	車両及び歩行者			
		対象 （直接働きかける）	街路樹、街路灯、歩道施設等			
		意図	街路の維持管理を行い、都市計画道路を通行する人や車の安全性、快適性を高め、沿道の良好な生活環境を確保します。			
	手段・方法 （どうやって）	街路灯の補修、施設修繕、街路樹の剪定等専門的な業務は業者委託しています。草取り・草刈り・剪定等で可能なものは沿道の地元区に委託しており、他の枝落としや草取り・草刈り・灌水等は、職員が実施しています。				
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		草取り、剪定をする。	草取り等回数	回	草取り等を行った回数（1路線あたり3回×6路線）	18
		施設の補修	補修件数	件	補修を行った件数	5
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		街路樹の適切な維持管理を行う。	草取り等管理	%	実施回数／目標回数	100
		必要な補修を実施する。	補修実施割合	%	施工件数／補修必要件数	100

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	5,183,000	4,209,507	4,759,460	4,509,654	4,186,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円	5,183,000	4,209,507	4,759,460	4,509,654	4,186,000	
職員数	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	
対象（者）数	人	55,515	55,561	55,435	55,737	55,782	
延利用（者）数 (b)	人	55,515	55,561	55,435	55,737	55,782	
単位コスト (a)/(b)	円	93	76	86	81	116	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	92.00	75.00	85.00	81.00	116.00	
D （ ）	活動指標	草取り等回数	目標	回	18	18	18
			実績	回	18	18	18
		達成率	%	100.00	—	100.00	100.00
	補修件数	目標	件	5	5	5	5
		実績	件	14	12	14	5
		達成率	%	280.00	240.00	280.00	200.00
—	目標	—	—	—	—	—	
	実績	—	—	—	—	—	
	達成率	%	—	—	—	—	
O （ ）	成果指標	草取り等管理	目標	%	100	100	100
			実績	%	100	100	100
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00
	補修実施割合	目標	%	100	100	100	100
		実績	%	280	100	100	100
		達成率	%	280.00	100.00	100.00	100.00
備考	「対象(者)数」及び「延利用(者)数」の数値については、本事務が不特定多数に影響を及ぼすものでその数値を把握できないため、「市の人口」を用いることとした。						

事務事業名	快適環境整備事業	事業期間	平成 8 ~	年度	整理番号	06020102
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	宮坂 悠哉	連絡先
						534

期	目 標	実 績	課 題
第1期	街路の維持管理を行い、通行する人や車の安全性、快適性を高め、沿道の良好な生活環境を確保する。	都市計画道路ごとの街路樹剪定委託の発注、地元区との草取り委託契約の締結と打ち合わせ実施。	地元区への依頼は、早期にお願いしスムーズな引継ぎを行う。
第2期	剪定委託業務受託者との打ち合わせ及び実施	剪定委託契約の締結と草取りの実施 茅野市立北部中学校にて、街路樹の役割について報告(総合の時間)	業務実施に係る日程等の調整 街路樹の役割を認識し、市民が当該街路樹に何を求めているのか理解する必要がある。(木陰、車道との境、縁、癒し等)
第3期	秋期剪定の日程調整及び実施	秋期剪定と草取りの実施	次年度の委託業務の内容に関する検討 街路樹も場所によっては、それなりの年月が経過している。打音等による検査を検討する必要がある
第4期	冬季により特に活動無し	冬季により特に活動無し	次年度の委託業務の内容に関する検討 必要な作業は、予算要求して確実に実施する

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課題	街路環境の維持管理には、継続的な経費と地域の方々の協力が今後とも必要です。管理するうえで、市民の方が街路樹がもたらす恩恵について、何を求めているのか理解する必要があります。例えば、街路樹により木陰ができ夏は非常に気持ちが良い涼をもたらす一方、風通しが悪くなることにより害虫が発生する等の被害も発生しています。管理者は地元と協議を行い、適切に管理することが求められます。	記号の定義 A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定	A	
前年度評価シート整理番号	05010604	

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	都市計画道路の維持管理については、交通機能はもとより歩行者の快適空間を確保するため、今後とも市が主体となって継続的に行っていく必要があります。専門的な工事・修繕等以外は、沿線地区の住民の方々のご協力をいただきながら環境整備を行う現在の方法が望ましいと考えます。	都市計画道路の維持管理については、交通機能はもとより歩行者の快適空間を確保するため、今後とも市が主体となって継続的に行っていく必要があります。専門的な工事・修繕等以外は、沿線地区の住民の方々のご協力をいただきながら環境整備を行う現在の方法が望ましいと考えます。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	より良い環境整備には維持管理が欠かせないため、毎年相応の費用が必要で、また、愛するまちづくりからも各種団体の美化奉仕活動の意識向上にも期待するところです。	より良い環境整備には維持管理が欠かせないため、毎年相応の費用が必要で、また、愛するまちづくりからも各種団体の美化奉仕活動の意識向上にも期待するところです。								

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	都市計画課長	田中正貴
---------	------------	---------	--------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

#N/A

事務事業名	無電柱化事業	事業期間	平成 27 ~ 年度	整理番号	06020109
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	黒澤俊彦
				連絡先	532

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり			
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実			
				細施策	06	都市計画道路の整備			
				事務事業	06	無電柱化事業			
予 算 事 業 名				会計コード		款	項	目	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	長野県電線類地中化協議会の決定による実施予定箇所に従い、計画的に無電柱化工事を施行する。茅野市内では茅野駅西口土地区画整理事業からさらに延伸し、県道弘沢茅野線（上川橋～宮川保育園前交差点）、八子ヶ峰公園線（茅野駅東口交差点～茅野市役所前～市役所東交差点）を景観、防災面での向上を図る。								
現 状 と 背 景 （どうして）	住みよいまちづくりや景観から無電柱化を進める。								
目 対 象	受益者 （誰のために）	市民及び沿線住民							
	対象 （直接働きかける）	長野県							
意 図 （どんな状態にしたいか）	道路に林立する電柱及び空中の電線をなくし、安全で快適な通行空間の確保、都市景観及び防災面の向上を図る。								
手 段 ・ 方 法 （どうやって）	市単独では困難であるので、県事業や道路改良などと合わせて施工する。 県道弘沢茅野線は、上川橋架け替え工事と宮川茅野地区土地区画整理事業に合わせ実施。 県道茅野停車場八子ヶ峰公園線は、バリアフリー基本構想に基づき、歩道改修と合わせて実施する。								
評 価 指 標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値				
	活動指標	地中化調査事業（観音通線）第7期	負担金納付額（観音通線）	円	当年度負担金額／予算金額	100			
	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値			
		地中化調査事業（観音通線）第7期	調査済延長（観音通線）	m	調査済延長	1,700			

項 目	単 位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)	円			922,914		
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円					
一般財源	円			922,914		
職員数	人			0.10	0.10	0.10
正規職員	人					
嘱託職員	人					
臨時職員	人					
合計	人			0.10	0.10	0.10
対象（者）数						
延利用（者）数 (b)						
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
受益者負担額	円					
市民一人当たりのコスト	円	-	-	17.00	-	14.00
活動指標	負担金納付額（観音通線）	目標 実績	円		922,914	
		達成率	%		922,914	
		目標 実績			100.00	
		達成率	%			
成果指標	調査済延長（観音通線）	目標 実績	m		1,700	1,700
		達成率	%		400	800
		目標 実績			23.53	47.06
		達成率	%			
備考						

事務事業名	無電柱化事業	事業期間	平成 27 ~	年度	整理番号	06020109
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	黒澤俊彦	連絡先
						532

期	目標	実績	課題
第1期	都計道上川橋線工事施工 電線共同溝特殊部の配置等に関する地元立会い 都計道観音通線 電線共同溝予備設計	都計道上川橋線工事施工中 電線共同溝特殊部の配置等に関する地元立会い 都計道観音通線 電線共同溝予備設計実施	地元調整
第2期	都計道上川橋線工事施工 都計道観音通線 電線共同溝予備設計 関係機関調整会議	都計道上川橋線工事施工中 都計道観音通線 電線共同溝予備設計実施 関係機関調整会議実施	地元調整
第3期	都計道上川橋線工事施工 都計道観音通線 電線共同溝詳細設計 関係機関調整会議	都計道上川橋線工事施工完了 都計道観音通線 電線共同溝詳細設計実施 関係機関調整会議実施	関係機関及び地元調整
第4期	都計道上川橋線工事発注 都計道観音通線 電線共同溝詳細設計 関係機関調整会議及び地元説明会	都計道上川橋線工事着手 都計道観音通線 電線共同溝詳細設計精査 関係機関調整会議及び地元説明会実施	関係機関及び地元調整

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	①
都計道上川橋線は、補正対応にて事業が前倒しとなる。 都計道観音通線は、電線共同溝詳細設計が進み、来年度から下水道布設 替え工事が実施され、現場着工となる。	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																

課題	事業費もかかるので、道路計画や他事業と合わせた無電柱化事業計画が必要である。	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定		A
前年度評価シート整理番号		05030106

総合評価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	他事業と合わせ実施できるよう、長野県電線類地中化計画へ載せる。					電線類地中化事業は、多額の事業費が必要となるために、都市計画道路や県道改良工事と合わせて行うことが有効と考える。茅野市独自の電線類地中化事業ではなく現在県事業として実施している。				
前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性					

改革・改善の方向性（ACTION）	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	新規事業路線については、長野県電線類地中化計画へ載せ事業が実施できるよう、県へ要望する。宮川地区内では、上川橋線整備事業で電線地中化を実施する。					新規事業路線については、長野県電線類地中化計画へ載せ事業が実施できるよう、県へ要望する。宮川地区内では、上川橋線整備事業で電線地中化を実施する。				

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	都市計画課長	田中正貴
---------	------------	---------	--------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	省エネルギー照明推進事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06020116
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	黒澤俊彦	連絡先	532

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり									
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実									
				細施策	06	都市計画道路の整備									
				事務事業	07	省エネルギー照明推進事業									
	予算事業名					会計コード	001	款	08	項	04	目	05	事業	03
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	街路に設置されている街路灯や、駅周辺施設の照明施設の器具をLED灯具に更新する。													
	現状と背景 （どうして）	現在の環境配慮の情勢の下、市内にある街路灯や照明施設をLED灯具に更新し、市や地元で負担する電気料金の削減を図り、低炭素、省エネルギー化を推進する必要がある。													
	目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	対象 （ 誰 の た め に ）	市民、施設利用者、電気料金支払者（地元商業会等）												
		対象 （ 直 接 働 き か け る ）	市民、施設利用者、電気料金支払者（地元商業会等）、沿道の商店主、関係機関、街路灯												
	意 図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	街路灯や照明施設をLED灯具に更新することにより、電気料金負担を軽減をはかる。あわせて環境保全への取り組みを進める。													
	手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	平成28年度に茅野駅自由通路の照明38箇所を、LED灯具に更新する工事を実施。 平成29年度は茅野駅自由通路の照明16箇所を、LED灯具に更新する工事を行う。 本年度で、茅野駅自由通路の照明灯を全てLED灯具に更新する工事が完了となる。													
N （ ）	活動 指 標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値						
		LED照明器具取替工事	取替箇所数	箇所	取替箇所数				257						
	成 果 指 標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値						
		電気料金の負担軽減	取替前後の料金対比	月%減	$(\text{取替前料金}-\text{取替後料金}) / \text{取替前料金} \times 100$				30						

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単 位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円		8,143,200	1,944,000
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
職 員 数	一般財源	円	8,143,200	1,944,000	972,000		
	正規職員	人		0.10	0.10	0.10	
	嘱託職員 臨時職員 計	人					
対 象 （ 者 ） 数	対象（者）数			55,435	55,827	55,737	
	延利用（者）数 (b)			55,435	55,827	55,737	
	単位コスト (a)/(b)	円	—	147	35	17	—
	受益者負担額	円					
活 動 指 標	取替箇所数	目標		257	257	257	
		実績		203	241	257	
	達成率	%	—	78.99	93.77	100.00	—
	—	目標					
実績							
達成率	%	—	—	—	—	—	
成 果 指 標	取替前後の料金対比	目標		30	30	30	
		実績		20	25	25	
	達成率	%	—	66.67	83.33	83.33	—
	—	目標					
実績							
達成率	%	—	—	—	—	—	
備 考							

事務事業名	省エネルギー照明推進事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	06020116
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	黒澤俊彦	連絡先	532

期	目標	実績	課題
第1期	茅野駅及びベルビア等の近接施設管理者との協議	近接施設管理者との事前協議の実施	LED照明更新工事の発注・施工
第2期	LED照明更新工事の発注・施工	LED照明更新工事の契約・工事着手・完了	工事後の電気代経費の削減状況の確認
第3期	次年度施工箇所の選定	次年度予算措置、削減状況確認	工事後の電気代経費の削減状況の確認
第4期	工事後の電気代経費の削減状況の確認	電気代経費の削減状況の確認	次期計画箇所の選定及び省エネルギー照明への推進

事中評価																					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の方向性</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の方向性</td> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>の方向性</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今	成果の方向性	②	⑤	⑦	後	の方向性	③	⑥	⑨	の方向性	縮小	④	⑧	⑩	の方向性	休廃止	①		
今	成果の方向性	②	⑤	⑦																	
後	の方向性	③	⑥	⑨																	
の方向性	縮小	④	⑧	⑩																	
の方向性	休廃止	①																			
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 自由通路については、本年度工事で省エネルギー照明への事業が完了になった。しかし、次期施工箇所については、施設や用途に応じた器具選定も必要であり、費用が多額になるので、箇所選定を再度検討する必要がある。	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																				

評価年度	前年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック					4					4					4	
課題	既存の照明施設を全てLED化するには、多額の予算が必要となる。また施設や用途に応じた器具選定についても検討する必要がある。															記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
	前年度総合評価判定															A
	前年度評価シート整理番号															05010607

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	LED化する順位を決定し、計画的に進める。						LED化する順位を決定し、計画的に進める。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	②	⑤	⑦						
の方向性	③	⑥	⑨							
の方向性	④	⑧	⑩							
の方向性	①									
	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策	予算や補助金も含め、LED化への整備計画を検討する中で、計画的に街路照明灯の省エネ化を進めたい。					予算や補助金も含め、LED化への整備計画を検討する中で、計画的に街路照明灯の省エネ化を進めたい。				

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	都市計画課長	田中正貴
---------	------------	---------	--------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	道路ストック点検・修繕事業	事業期間	平成 26 ~ 年度	整理番号	06010305
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢 弥
				連絡先	506

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進
				事務事業	03	橋梁修繕事業
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 02 目 03 事業 05
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	道路法に基づき、トンネル、橋等について5年に1回の近接目視による点検等を規定する道路法施行規則の一部を改正する省令が平成26年3月31日公布され、平成26年7月1日より施行された。この改正により、茅野市の管理橋梁504橋について、5年以内に全て点検を行い、その後、5年毎に定期点検することが義務化された。				
	現状と背景 （どうして）	橋梁の高齢化と劣化が急速に進んでいる。橋梁の定期点検を行い、橋梁の最新の状態を把握するとともに、次回の定期点検までの措置の必要性の判断を行う上で必要な情報を得るために行う。				
	目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	すべての橋梁を渡る人、橋梁の下を通る車両等。			
		対象 （直接働きかける）	茅野市管理する橋			
		意図 （どんな状態にしたいか）	損傷の度合いを調べ、損傷の修繕方法・時期を明らかにする。			
	手段・方法 （どうやって）	「道路橋定期点検要領」（平成26年6月 国土交通省道路局）に従い、橋梁の部材ごとに近接目視や打音調査等を行う。点検結果は要領に指定されている様式により取りまとめるを行う。				
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		橋梁点検	点検橋梁数	橋	点検橋梁	504
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		橋梁点検	点検橋梁数	%	（点検済橋梁数）／（全体橋梁数）	100

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）			
事業費等 (a)	円		34,668,000	28,785,633	28,785,633	24,000,000			
財源内訳									
国庫支出金	円		19,067,400	15,829,000	15,829,000	13,200,000			
県支出金	円								
地方債	円		2,300,000						
その他特定財源	円								
一般財源	円		13,300,600	12,956,633	12,956,633	10,800,000			
職員数	人		0.10	0.30	0.30	0.30			
正規職員	人								
嘱託職員	人								
臨時職員	人								
合計	人		0.10	0.30	0.30	0.30			
対象（者）数									
延利用（者）数 (b)									
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—			
受益者負担額	円								
市民一人当たりのコスト	円	—	619.00	516.00	519.00	474.00			
D （ ）	活動指標	点検橋梁数	目標	橋	50	160	127	107	66
			実績	橋	50	154	127	116	66
	達成率	%	100.00	96.25	100.00	108.41	100.00		
	—	目標	—						
—	実績	—							
—	達成率	%	—	—	—	—			
O （ ）	成果指標	点検橋梁数	目標	%	10	41	62	87	100
			実績	%	10	40	66	89	100
	達成率	%	100.00	97.56	106.45	102.30	100.00		
	—	目標	—						
—	実績	—							
—	達成率	%	—	—	—	—			
備考									

事務事業名	道路ストック点検・修繕事業	事業期間	平成 26 ~	年度	整理番号	06010305	
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢 弥	連絡先	506

期	目 標	実 績	課 題
第1期	JR跨線橋の点検に向けて、JR東日本長野支社と早期に協定書の締結を行う。	下協議を行っていたため円滑に協定締結ができた。	一般橋梁に比べ跨線橋は、保安費等の間接経費がかさむため点検費用が高くなってしまふ。
第2期	直営点検に着手し降雪前に今年度対象橋梁の点検を完了する。	今年度直営点検対象橋梁の8割について点検を実施した。	あまり利用されていない山奥の橋梁の存続について検討する必要がある。
第3期	委託点検の進捗状況を確認し仮集計を開始する。	課題橋梁の把握と仮集計が実施できた。	橋脚高が高い橋梁は大きな橋梁点検車が必要になるため点検費用が割高になってしまう。
第4期	直営点検及び委託点検の点検結果を集計する。	今年度点検対象橋梁について2月中に集計を行うことができた。	健全度Ⅲの橋梁について、橋梁長寿命化対策とは別に計画的な補修する必要がある。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	
課 題	橋梁は市の管理する道路施設であり、重要な施設である。限られた予算で安全性を確保するために、修繕費を抑えた効率的な補修を行う必要がある。															
記 号 の 定 義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	05010305															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	橋梁は資産価値の高い重要な施設である。施設を長年に利用するためには今以上の劣化進行を防ぐのに有効な事業であるため、課題である補修内容の変更に柔軟に対応し、計画通り事業を進める。	橋梁は資産価値の高い重要な施設である。施設を長年に利用するためには今以上の劣化進行を防ぐのに有効な事業であるため、課題である補修内容の変更に柔軟に対応し、計画通り事業を進める。									
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性					

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	橋梁の健全度を高く保ちながらも少ない費用で補修を行える計画とし、費用対効果を十分に精査する。	橋梁の健全度を高く保ちながらも少ない費用で補修を行える計画とし、費用対効果を十分に精査する。								
今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止									
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性									

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	建設課長	牛山和雄
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	都市計画協会及び都市施設協会負担金			事業期間	平成 27 ~ 年度	整理番号	06020113
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	黒澤俊彦	連絡先	532

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法	市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策 05 第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり 施策 01 第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実 細施策 06 都市計画道路の整備 事務事業 -		
	予算事業名	会計コード 001 款 08 項 04 目 01 事業 19				
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	(財) 都市計画協会と長野県都市施設協会に対し、決められた率により負担し、都市計画事業の推進を図っています。				
	現状と背景 (どうして)	協会から、新法策の調査研究資料や実務及び技術研修等による情報提供を受けることで、都市計画に関する知識を習得及び向上することが出来ます。国の動向（都市計画法改正など）の情報等を受け、国や政府への要望、国庫補助事業への対応をスムーズにしています。				
目 対 象	受益者 (誰のために)	市民全般				
	対象 (直接働きかける)	国、長野県				
意 図	意図 (どんな状態にしたいか)	都市計画に関わる施設の整備推進を図り、快適な環境を確保します。				
	手段・方法 (どうやって)	(財) 都市計画協会には、人口割り基本額と補正額の合計123,000円。長野県都市施設協会には、人口割りと前年度事業（街路、区画整理、公園、下水道の事業費）の負担率との合計142,900円（平成27年度実績）を支払っていきます。				
評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		予算に対する負担金納付額	納入負担金額	円	事業執行状況(%) = 負担金額 / 予算金額	100
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		国からの研修及び情報提供	研修、情報提供回数	回	研修、情報提供回数	10

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算 又は決算額)	平成30年度 事業計画(予算)		
事業費等(a)	円	322,000	265,900	214,100	245,800	304,000		
財源内訳								
国庫支出金	円							
県支出金	円							
地方債	円							
その他特定財源	円							
一般財源	円	322,000	265,900	214,100	245,800	304,000		
職員数	人							
正規職員	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10		
嘱託職員	人							
臨時職員	人							
合計	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10		
対象(者)数		55,617	55,435	55,827	55,737	55,782		
延利用(者)数(b)		55,617	55,435	55,827	55,737	55,782		
単位コスト(a)/(b)	円	6	5	4	4	19		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	6.00	5.00	4.00	4.00	19.00		
活 動 指 標	納入負担金額	目標	円	243,000	255,900	214,100	254,000	304,000
		実績	円	322,000	265,900	254,000	245,800	304,000
	達成率	%	132.51	103.91	118.64	96.77	100.00	
	-	目標	-					
実績		-						
達成率	%	-	-	-	-	-		
成 果 指 標	研修、情報提供回数	目標	回	10	10	10	10	
		実績	回	5	5	5	6	10
	達成率	%	50.00	50.00	50.00	60.00	100.00	
	-	目標	-					
実績		-						
達成率	%	-	-	-	-	-		
備考	「対象(者)数」及び「延利用(者)数」の数値については、本事務が不特定多数に影響を及ぼすものでその数値を把握できないため、「市の人口」を用いることとした。							

事務事業名	都市計画協会及び都市施設協会負担金	事業期間	平成 27 ~	年度	整理番号	06020113
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	黒澤 俊彦	連絡先
						532

期	目 標	実 績	課 題
第1期	定められた率により負担し都市計画事業推進を図っていく。	(財)都市計画協会負担金支払い完了	県都市施設協会負担金精査
第2期	県都市施設協会負担金支払い	県都市施設協会負担金支払い完了	次年度県都市施設協会負担金精査
第3期	次年度都市計画協会及び県都市施設協会負担金予算要望	予算要望実施	定められた率により負担し都市計画事業推進を図っていく。
第4期	定められた率により負担し都市計画事業推進を図っていく。	予算確保	定められた率により負担し都市計画事業推進を図っていく。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拓 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 定められた率により負担し、都市計画事業を推進していくよう適切な予算を要望、確保する。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック					4					4					4					4	A
課題	負担金は、協会からの請求により支出しているところがあり、断る事が出来ない状況です。しかし、支出していることで、協会主催の研修会で国土交通省の主要施策の状況、法改正や省予算状況など国交省職員から直接聞けることから、知識習得に積極的に努めなければならないと考えています。															記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要					
	前年度総合評価判定					A					前年度評価シート整理番号					05010608					

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	都市計画事業を行うには、国や県との繋がりも考えやむを得ない負担金である。	都市計画事業を行うには、国や県との繋がりも考えやむを得ない負担金である。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今後の方向性	成 果 の 方 向 性 休 廃 止	①	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩	成 果 の 方 向 性 休 廃 止	①	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩
改革・改善策	負担金の請求内説明書を請求しながら、都市計画事業を行う自治体として必要な負担金は支払う。					負担金の請求内説明書を請求しながら、都市計画事業を行う自治体として必要な負担金は支払う。				

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	都市計画課長	田中正貴
---------	------------	---------	--------	------